

Symantec NetBackup™ リリースノート

リリース 7.6.1.2

ソフトウェアリリースの更新

マニュアルバージョン 1

Symantec NetBackup™ リリースノート

マニュアルバージョン: 7.6.1.2

法的通知と登録商標

Copyright © 2015 Symantec Corporation. All rights reserved.

Symantec、Symantec ロゴ、チェックマークロゴは、Symantec Corporation またはその関連会社の、米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Symantec Corporation からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

Symantec Corporation が提供する技術文書は Symantec Corporation の著作物であり、Symantec Corporation が保有するものです。保証の免責: 技術文書は現状有姿のままで提供され、Symantec Corporation はその正確性や使用について何ら保証いたしません。技術文書またはこれに記載される情報はお客様の責任にてご使用ください。本書には、技術的な誤りやその他不正確な点を含んでいる可能性があります。Symantec は事前の通知なく本書を変更する権利を留保します。

弊社製品に関して、当資料で明示的に禁止、あるいは否定されていない利用形態およびシステム構成などについて、これを包括的かつ暗黙的に保証するものではありません。また、弊社製品が稼動するシステムの整合性や処理性能に関しても、これを暗黙的に保証するものではありません。

これらの保証がない状況で、弊社製品の導入、稼動、展開した結果として直接的、あるいは間接的に発生した損害等についてこれが補償されることはありません。製品の導入、稼動、展開にあたっては、お客様の利用目的に合致することを事前に十分に検証および確認いただく前提で、計画および準備をお願いします。

Symantec Corporation
350 Ellis Street
Mountain View, CA 94043

<http://www.symantec.com>

Printed in the United States of America.

目次

第 1 章	NetBackup 7.6.1.2 について	8
	NetBackup 7.6.1.2 のリリースについて	8
	NetBackup 7.6.1 リリースラインへのアップグレードパスについて	9
	NetBackup の最新情報について	9
	NetBackup サードパーティの法的通知について	10
第 2 章	新機能、拡張機能および変更	11
	NetBackup の新しい拡張と変更について	11
	NetBackup 7.6.1.2 の新機能、拡張機能、変更点	12
	NetBackup 7.6.1.1 の新機能、拡張機能および変更	12
	GPFS メタデータ属性 (storage pools、metadata replicatoin、および data replication) のサポート	13
	NetBackup 7.6.1 の新機能、拡張機能および変更	14
	NetBackup 7.6.0.4 の新機能、拡張機能および変更	18
	SAN クライアントでは、メディアサーバー当たりの並列ファイバポート サポート接続の数が増えている	19
	NetBackup 7.6.0.3 の新機能、拡張機能および変更	20
	特定の vApps の検索を高速化するクエリービルダーを使用する	21
	複数のカーネルレベルを跨って選択を行うための新しい BMR ユー ザープロンプトの追加	21
	MSDP pd.conf ファイルの新しいデフォルトの構成パラメータ	22
	NetBackup の状態コード: 4243	22
	NetBackup の状態コード: 2821	22
	NetBackup 7.6.0.2 の新機能、改善および変更	23
	NetBackup および NetBackup アプライアンスに対する OpenSSL "Heartbleed" 脆弱性	23
	Amazon Simple Storage Service (S3) のリージョンサポートについ て	24
	新しい nbdevconfig コマンドオプション (-config)	25
	OpsCenter スケジュールが設定されたレポートの設定によるレポート 生成の高速化	26
	代替の場所への復元する新しいメディアサーバーオプション	27

第 3 章	操作上の注意事項	28
	NetBackup 7.6.1.2 の操作上の注意事項について	28
	NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項	29
	インストール DVD を挿入すると表示されるメニューからインストールし ないでください	29
	HP-UX Itanium の vPars SRP のコンテナのサポートについて	29
	AIX に必要な追加手順	30
	NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項	30
	NetBackup Audit Manager (nbaudit) で NetBackup サービスをリサ イクルするときにコアダンプの問題が起きることがある	30
	Windows NTFS 変更ジャーナルを含む Client Job Tracker を使わ ないでください	30
	UltraSPARC T シリーズまたは SPARC T3 アーキテクチャにおける NetBackup 7.x マスターサーバーのパフォーマンス問題発生の 可能性	31
	NEC HYDRA ストレージサーバー形式を正しく追加することができな い	31
	バックアップスクリプトのパスフィールドが自動バックアップのスケジュー ル向けにアクティブにされていない	31
	NetBackup アクセラレータの操作上の注意事項	32
	VMware のアクセラレータバックアップが不正なチェックサムのエラー で断続的に失敗する	32
	NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項	32
	Windows x86 (32ビット版) の NetBackup 7.6.0.2 クライアントは仮想 インスタンスコンバータとして使うことができない	32
	BMR は、Windows 8/Server 2012 の一連のリリースで Resilient File System (ReFS) を完全にはサポートしない	33
	レガシーのリストアは Windows 8/Server 2012 以降ではサポートされ ない	33
	ZFS ボリュームの他のファイルシステムはサポートされない	33
	ブートサーバーは NetBackup 6.5.X と 6.X Windows SRT (共有リ ソースツリー) の作成をサポートしない	33
	ブートサーバーは 6.5.X と 6.X Windows SRT のコピーをサポートし ない	33
	BMR では RIS サーバーのリモートインストールフォルダの場所をリス トアしない	34
	NetBackup BMR は IPv4 ネットワーク接続を使わないと IPv6 の情報 をリストアできない	34
	WinPE の変更が原因で BMR リストア中にドライバがないことを示す メッセージが表示されることがある	34
	代替ドメイン内の複製された BMR イメージの PIT リストアが失敗す ることがある	36

不合理なメッセージが RAID1 ボリュームがある RHEL クライアントの BMR のリカバリ中に発生する可能性がある	36
EFI ブートシステムで Windows クライアントを復元した後に追加の手順が必要になる	36
NetBackup データベースとアプリケーションエージェントの操作上の注意事項	36
NetBackup for Exchange と NetBackup for SharePoint の操作上の注意事項	37
NetBackup for Microsoft SQL Server の操作上の注意事項	40
NetBackup for Oracle の操作上の注意事項	41
NetBackup for SAP の操作上の注意事項	43
NetBackup 重複排除に関する注意事項	44
Windows 環境では、重複排除カタログ DR ポリシーにより重複排除カタログが保護されない場合がある	44
NetBackup Deduplication Engine のユーザー名とパスワードは、最大 62 文字で指定する必要がある	44
新しいバージョンの NetBackup では MSDP 重複排除データベースを大幅に修正する可能性がある	44
重複排除カタログポリシージョブの状態が 0 を示すが、重複排除カタログを保護しないことがある	45
NetBackup のマニュアルについての注意事項	45
『NetBackup コマンドリファレンスガイド』の注意事項	45
『Symantec NetBackup for Microsoft Exchange Server 管理者ガイド』の注意事項	46
『Symantec NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』の注意事項	47
『NetBackup Snapshot Client 管理者ガイド』の注意事項	48
NetBackup 状態コードリファレンスガイドの注意事項	48
『NetBackup for VMware 管理者ガイド』の注意事項	48
『NetBackup Plug-in for VMware vCenter ガイド』の注意事項	50
『NetBackup Plug-in for vSphere Web Client ガイド』の注意事項	50
NetBackup for NDMP の操作上の注意事項	51
NDMP 多重化 (MPX) リストアが過度のログメッセージを生成したことが原因で、アクティビティモニターがハングアップすることがある	51
ワイルドカードを使うと、NDMP バックアップがステータスコード 106 で失敗する場合がある	51
ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないことがある	52
NetBackup OpsCenter の操作上の注意事項	52
OpsCenter で NetBackup 6.x をサポートしない	52

	database.conf がデフォルト以外のインストール場所で上書きされる	52
	OpsCenter インターフェースがマスターサーバーへの接続に失敗した後で不特定のエラーを返す	53
	NetBackup ディスクプールのサイズと使用率の比較レポートに不正なデータが表示される	53
	OpsCenter のレポートに仮想マシン用の IP アドレスが表示される	53
	OpsCenter が Windows Server 2012 R2 で不正な OS レベルを表示する	54
	OpsCenter の検索機能の保留操作が失敗する可能性がある	54
	Windows コンピュータ上のリモート OpsCenter View Builder から OpsCenter サーバーにアクセスする際の問題	54
	NetBackup レプリケーションディレクタの操作上の注意事項	55
	NetBackup Snapshot Client の操作上の注意事項	55
	UNIX ファイルシステムで nbu_snap を使っている場合に、NetBackup は拡張ボリューム目次または EFI ラベルをサポートしない	55
	MS-Windows スナップショットポリシーにより、ドライブ文字の後にバックスラッシュが付きます。	56
	NetBackup 仮想化の操作上の注意事項	56
	NetBackup for VMware の操作上の注意事項	56
	vCloud Director の操作上の注意事項	67
	NetBackup for Hyper-V の操作上の注意事項	68
第 4 章	解決済みの操作上の注意事項	70
	解決済みの操作上の注意事項について	70
	NetBackup の一般的な解決済みの操作上の注意事項	70
付録 A	NetBackup のリリース内容	73
	NetBackup のリリース内容について	73
付録 B	NetBackup ユーザーの SORT について	74
	Symantec Operations Readiness Tools について	74
	SORT の新規インストールのための推奨手順	75
	SORT のアップグレードのための推奨手順	79
付録 C	NetBackup のインストール要件	82
	NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新	82

付録 D	NetBackup の互換性の要件	89
	NetBackup のリリース形式とバージョン番号について	89
	NetBackup のバージョン間の互換性について	90
	NetBackup の互換性リストと情報について	92
	NetBackup の End-of-Life のお知らせについて	94
付録 E	他のNetBackup マニュアルおよび関連マニユアル	96
	NetBackup の関連マニュアルについて	96
	NetBackup リリースノートについて	97
	NetBackup 管理者ガイドについて	97
	NetBackup オプションの管理について	97
	NetBackup データベースエージェントの管理について	99
	NetBackup のインストールマニュアルについて	101
	NetBackup の構成マニュアルについて	101
	NetBackup のトラブルシューティングマニュアルについて	101
	その他の NetBackup のマニュアルについて	101

NetBackup 7.6.1.2 について

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 7.6.1.2 のリリースについて](#)
- [NetBackup の最新情報について](#)
- [NetBackup サードパーティの法的通知について](#)

NetBackup 7.6.1.2 のリリースについて

Symantec社は、NetBackup 7.6.1.2 のリリースを発表いたします。このリリースでは、重要な機能、拡張機能、NetBackup のパフォーマンス改善とその関連オプションが導入されています。これらの新しい機能および拡張機能によって、物理環境と仮想化環境のミッションクリティカルなデータとアプリケーションを保護する NetBackup の機能が改善および拡張されます。

『NetBackup リリースノート』のドキュメントは NetBackup のバージョンのリリースに関する情報のスナップショットとして機能します。古い情報およびリリースに適用しない情報はリリースノートから削除されるか、または NetBackup のマニュアルセットの別の所に移行されます。

p.11 の「[NetBackup の新しい拡張と変更について](#)」を参照してください。

EEB およびリリース内容について

NetBackup 7.6.1.2 には、以前のバージョンの NetBackup で顧客に影響を与えていた既知の問題の多くに対する修正が組み込まれています。これらの修正のいくつかは Titan または Salesforce.com (SFDC) のケースの形で文書化された顧客固有の問題に関連しています。このリリースに組み込まれた顧客関連の修正のいくつかは、Emergency Engineering Binary (EEB) として利用可能になりました。

NetBackup 7.6.1.2 で修正された既知の問題を文書化した EEB および Etrack のリストは、Symantec Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトおよび『[NetBackup Emergency Engineering Binary ガイド](#)』にあります。

p.74 の「[Symantec Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

p.73 の「[NetBackup のリリース内容について](#)」を参照してください。

NetBackup アプライアンスのリリースについて

NetBackup アプライアンスは、事前設定バージョンの NetBackup を含むソフトウェアパッケージを実行します。新しいアプライアンスソフトウェアリリースの開発時、NetBackup の最新バージョンがアプライアンスコードの構築基盤として使われます。たとえば、NetBackup Appliance 2.6 は NetBackup 7.6 を基盤としています。この開発モデルにより、NetBackup 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

NetBackup アプライアンスソフトウェアは、その構築基盤となる NetBackup リリースと同時に、またはそのすぐ後にリリースされます。NetBackup アプライアンスを利用する場合、実行する NetBackup アプライアンスバージョンの『[NetBackup リリースノート](#)』を確認する必要があります。

アプライアンス固有のマニュアルは次の場所から入手できます。

<http://www.symantec.com/docs/DOC2792>

NetBackup 7.6.1 リリースラインへのアップグレードパスについて

NetBackup 7.6.1 へのアップグレードは NetBackup 6.0 以降のすべてのバージョンでサポートされます。ただし、NetBackup 7.6.0.4 で導入された機能の一部は、NetBackup 7.6.1 GA リリースには実装されていません。その機能の違いはバグ修正およびわずかな機能に限定されます。

次のアップグレードシナリオを参照し、適切なアップグレードパスを特定してください。

- NetBackup 7.6.0.3 以前を実行中の場合、アップグレードパスは NetBackup 7.6.1 GA 以降になります。
- NetBackup 7.6.0.4 以前を実行中の場合、推奨アップグレードパスは NetBackup 7.6.1.1 以降になります。

更新情報については、定期的に次の TechNote を確認してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH225453>

NetBackup の最新情報について

NetBackup の最新情報や発表については、次の場所から利用可能な NetBackup の最新情報 Web サイトを参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH74904>

他の NetBackup 固有の情報は、次の場所から提供されています。

go.symantec.com/nb

NetBackup サードパーティの法的通知について

NetBackup には、Symantec による所有者の掲示が義務付けられているサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。

これらのサードパーティプログラムの所有権通知とライセンスは、次の Web サイトで入手できる『NetBackup サードパーティの法的通知』文書に記載されています。

<http://www.symantec.com/about/profile/policies/eulas/>

新機能、拡張機能および変更

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の新しい拡張と変更について](#)
- [NetBackup 7.6.1.2 の新機能、拡張機能、変更点](#)
- [NetBackup 7.6.1.1 の新機能、拡張機能および変更](#)
- [NetBackup 7.6.1 の新機能、拡張機能および変更](#)
- [NetBackup 7.6.0.4 の新機能、拡張機能および変更](#)
- [NetBackup 7.6.0.3 の新機能、拡張機能および変更](#)
- [NetBackup 7.6.0.2 の新機能、改善および変更](#)

NetBackup の新しい拡張と変更について

NetBackup リリースには、新機能および製品修正に加えて顧客対応の新しい拡張と変更が含まれることがよくあります。よくある拡張の例には、新しいプラットフォームのサポート、アップグレードされた内部ソフトウェアコンポーネント、インターフェースの変更、拡張された機能のサポートなどがあります。新しい拡張と変更のほとんどは、『[NetBackup リリースノート](#)』および [NetBackup の互換性リスト](#) に文書化されます。

メモ:『[NetBackup リリースノート](#)』には、特定の [NetBackup](#) バージョンレベルでそのリリースのタイミングで開始される新しいプラットフォームサポートのみがリストされます。ただし、[Symantec](#) によって、以前のバージョンの [NetBackup](#) へのプラットフォームサポートのバックデートが定期的に行われます。最新のプラットフォームサポートのリストについては、[NetBackup の互換性リスト](#) を参照する必要があります。

p.8 の「[NetBackup 7.6.1.2 のリリースについて](#)」を参照してください。

p.92 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

NetBackup 7.6.1.2 の新機能、拡張機能、変更点

次のリストに、バージョン 7.6.1.2 以降の NetBackup の新機能、拡張機能、変更点を示します。

- 次のサポートが追加されました。
 - Microsoft SharePoint 2013 - SQL 2014 のサポート
 - SUSE Linux 11 SP3 と RHEL (Red Hat Enterprise Linux) 6.5 の SAP HANA (High-Performance Analytic Appliance) SPS 09
データベースインスタンスのリダイレクトリストアがサポートされるようになりました。
設定とリストアの手順については、次の記事を参照してください。
<http://www.symantec.com/docs/TECH230640>
 - Red Hat Enterprise Linux 7 の Oracle 12c
 - Red Hat Enterprise Linux 7 の Oracle 11g R2
 - BMR (Bare Metal Restore) クライアント/ブートサーバー Windows Server 2012 R2 (パリティ) - ESXi 5.1 と 5.5 の P2V (physical to virtual) から VMware への移行
仮想環境の NetBackup 7.x のサポートについて詳しくは、次の記事を参照してください。
<http://www.symantec.com/docs/TECH127089>
 - SuSE Linux 12 (NetBackup メディアサーバー、MSDP、クラウド)

メモ: サポート対象のソフトウェアとハードウェアの詳細なリストは、次の URL で「[NetBackup Master Compatibility List](#)」を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH59978>

NetBackup 7.6.1.1 の新機能、拡張機能および変更

メモ: NetBackup 7.6.0.4 に導入された機能の一部は NetBackup 7.6.1 リリースには実装されていません。これらの機能は NetBackup 7.6.1.1 で復元されています。

p.9 の「[NetBackup 7.6.1 リリースラインへのアップグレードパスについて](#)」を参照してください。

次のリストに、バージョン 7.6.1.1 以降の NetBackup の新機能、拡張機能および変更を示します。

- レプリケーションディレクトリは EMC VNX および Celerra ストレージシステムのスナップショット作成機能を提供します。ストレージ共有の設定、ストレージサーバーの作成、およびスナップショット作成ポリシーの設定について詳しくは、次の文書を参照してください。
<http://www.symantec.com/docs/TECH228346>
- NetBackup には General Parallel File System (GPFS) メタデータ属性 (storage pools、metadata replicatoin、および data replication) のバックアップと復元のサポートが追加されました。この機能に関する詳細情報を参照できます。
 p.13 の「[GPFS メタデータ属性 \(storage pools、metadata replicatoin、および data replication\) のサポート](#)」を参照してください。
- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.5 での Lotus Notes 9 のサポート
- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.5 での SAP High-Performance Analytic Appliance (HANA) のサポート
- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6 の BMR クライアントブートサポートのサポート
- Red Hat Enterprise Linux 7 での SAP Oracle 7 のサポート
- Windows Server 2012 R2 での SAP Oracle 7 のサポート
- SQL Server 2014 での Enterprise Vault 11.0.1 のサポート

GPFS メタデータ属性 (storage pools、metadata replicatoin、および data replication) のサポート

NetBackup には GPFS メタデータ属性 (storage pools、metadata replicatoin、および data replication) のバックアップと復元のサポートが追加されました。デフォルトでは、NetBackup は GPFS ボリュームの ACL、拡張属性、およびこれらの追加メタデータ属性をバックアップおよび復元します。追加の設定は必要ありません。

ファイルの復元後にファイルの状態に `illplaced` フラグまたは `illreplicated` フラグが表示される場合は、次の情報を参照してください。(ファイルの状態を表示するには、GPFS `mmisattr` コマンドを使用します。)

`illplaced` フラグは、ファイルがバックアップ時の場所とは別の GPFS ストレージプールに復元された場合に表示されます。この変更は、GPFS ファイル配置ポリシーにおける作成ルールの変更または移行ルールの結果に起因する場合があります。または、GPFS 管理者が `mmchattr` コマンドを使用してファイルを別のストレージに移動している場合があります。

`illreplicated` フラグは、復元されたファイルのあるストレージプールにあるエラーグループがデータレプリケーション設定に定める数よりも少ない場合、またはシステムプー

ルにあるエラーグループがメタデータレプリケーション設定よりも少ない場合に表示されます。

GPFS 管理者は、関連するファイル数とネットワークトラフィックに応じて次の 2 つのコマンドのいずれかを実行することで、ファイルのレプリケーション係数を再調整して `illplaced` フラグまたは `illreplicated` フラグを解決できます。

- 単一ファイルの場合: `mmrestripecfile`
- ファイルシステム全体の場合: `mmrestripecfs`

GPFS メタデータ属性のサポートに関する注記

- GPFS 属性と ACL を持つファイルを代替プラットフォームに復元した場合、メタデータ属性または ACL が復元されません。たとえば、RHEL システムからファイルをバックアップして AIX システムに復元する場合です。この復元では「不正なシステム呼び出し」などのエラーが発生する場合があります。(ただし拡張属性は代替プラットフォームに復元可能です。)
- NetBackup 7.6.1.1 クライアントで作成したバックアップを NetBackup 7.6.1 を使用して復元した場合、バックアップされた GPFS 拡張属性または新しくサポートされた GPFS メタデータ属性は復元されません。(ただし、ACL は復元されます。)使用する詳細ログレベルに応じて、進捗ログに次のようなメッセージが表示されます。
不明な拡張属性(3 - META_GPFS) - 情報が失われます

NetBackup 7.6.1 の新機能、拡張機能および変更

メモ: 7.6.0.x リリースラインのアップグレードパリティについては、次のトピックを参照してください。

p.9 の「[NetBackup 7.6.1 リリースラインへのアップグレードパスについて](#)」を参照してください。

次のリストは、NetBackup バージョン 7.6.1 以降を対象とする一般的な新機能、拡張機能、および変更点を示しています。

- Sybase SQL Anywhere データベース (NetBackup カタログ) は自動的にバージョン 16.0 にアップグレードされます。
- [アクティビティモニター (Activity Monitor)] は拡張されてジョブ階層が表示され、[ジョブの詳細 (Job Details)] > [状態の詳細 (Detailed Status)] にエラーコードのハイパーリンクが含まれるようになりました。アクティビティモニターのツールバーボタンをクリックして、フラットビューとジョブ階層ビューを切替えることができます。
- NetBackup は、General Parallel File System ファイルおよびフォルダのアクセス制御リスト (ACL) と拡張属性メタデータを認識するようになりました。デフォルトでは、

NetBackup は GPFS ボリュームの ACL および拡張属性をバックアップおよび復元します。追加の設定は必要ありません。

詳細は、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』(バージョン 7.6.1 用)に含まれています。サポートされているオペレーティングシステムおよび GPFS バージョンについては、『Symantec NetBackup ハードウェア互換性リスト』を参照してください。

- [バックアップコピーの最大数]のホストのプロパティは設定できなくなりました。バージョン 7.6.1 では、NetBackup は単一のマスターサーバーメイン内に同時に存在できるバックアップイメージの複製の最大数を 10 とみなします。このプロパティは[NetBackup 管理コンソール]の[グローバル属性]マスターサーバーのホストプロパティの下で表示されました。

NetBackup メディアサーバー重複排除オプション

次のリストは、&ProductName 7.6.1 以降の NetBackup メディアサーバー重複排除オプション(MSDP)に関連している一部の新機能、拡張機能および変更が含まれています。

- NetBackup は、SUSE Linux システムでは 1 つの[メディアサーバー重複排除プール(Media Server Deduplication Pool)]で 96 TB のストレージをサポートしています。NetBackup では、NetBackup PureDisk 製品と重複排除アプライアンスの NetBackup 50xx シリーズからの移行をサポートするために、SUSE Linux システムでこの拡張容量をサポートしています。これらの製品は両方とも SUSE Linux に基づいています。

新しい MSDP 機能の詳細については、次の URL で『NetBackup 重複排除ガイド』(バージョン 7.6.1)を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/DOC5332>

- パフォーマンスと拡張性を改善するために、NetBackup 7.6.1 リリースは、重複排除のデータベースに対して大幅な変更を行いません。NetBackup 7.6.1 の MSDP データベースに関する変更は、アップグレードのインストール中に既存のデータベースレコードが新しい形式に変換できることを必要とします。アップグレードと MSDP 環境の NetBackup 7.6.1 への変換については、『NetBackup アップグレードガイド』および『NetBackup 重複排除ガイド』を参照してください。
- 可用性を向上するために、NetBackup はこのリリースで MSDP カタログを保護するために 2 層の方法を導入します。
 - 日単位のシャドーコピー
NetBackup は MSDP カタログのコピーを自動的に日々作成することで一次保護を提供します。NetBackup がカタログで破損を検出した場合、NetBackup は最新のシャドーコピーから破損している部分をリストアします。
 - カタログバックアップポリシー
NetBackup は MSDP カタログのバックアップポリシーを作成するユーティリティを提供します。バックアップポリシーを MSDP カタログの適切な値で追加します。

MSDP カタログバックアップはカタログの保護に対して二次保護を提供します。カタログバックアップはシャドーコピーが利用不可または破損している場合に限り、利用可能です。

MSDP カタログ保護機能の詳細については、次の URL の [NetBackup 重複排除ガイド] (バージョン 7.6.1) を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/DOC5332>

- Symantec は NetBackup によるメディアサーバーの重複排除プールの使用状況を報告する方法を変更しました。変更前は、ファイルシステムのルート予約済み領域が対象のメディアサーバーの重複排除プールに追加されていました。それにより、NetBackup はファイルシステムユーティリティが報告していたボリュームの使用量より多くの使用量を報告していました。このリリースを初め、ルートの予約済み領域は使用量の対象から外され、ファイルシステムの raw スペースから引かれます。NetBackup 7.6.1 にアップグレードした後、報告された raw スペースと使用量は減少する可能性があります。使用量は変更されず、レポートがより正確になりました。

NetBackup OpsCenter

次のリストには、NetBackup OpsCenter バージョン 7.6.1 の新しい機能、拡張機能および変更が一部記載されています。

- OpsCenter 7.6.1 では、OpsCenter サーバーデータベースは Sybase SQL Anyware 16.0 にアップグレードされます。
Sybase ソフトウェアのアップグレード後、パフォーマンスを上げるために OpsCenter データベースのデフラグを行ってください。
OpsCenter のデータベースのデフラグに関する情報は、次の場所にある『OpsCenter パフォーマンスチューニングガイド』を参照してください。
<http://www.symantec.com/docs/DOC5808>
- OpsCenter 7.6.1 以降では、NetBackup からデータを収集するために OpsCenter Agent をインストールして構成する必要はありません。OpsCenter は NBSL コンポーネントおよび bpjava プロトコルを使用して NetBackup からデータを収集します。

メモ: ただし依然として、Backup Exec からデータを収集するために OpsCenter Agent をインストールして構成する必要があります。

- OpsCenter 7.6.1 は、NetBackup 5330 アプライアンスおよびそのコンポーネント(プライマリストレージシェルフと拡張ストレージシェルフ)を監視できます。
NetBackup 5330 を監視するには、OpsCenter に対応するマスターサーバーアプライアンスを追加する必要があります。OpsCenter に適切なマスターサーバーアプライアンスを追加すると、次のことを実行できます。
 - NetBackup 5330 固有の条件に基づいてアラートポリシーを作成します。
 - NetBackup 5330 ハードウェアに障害が発生したときにアラートを表示します。

NetBackup for VMware

次のリストには、NetBackup for VMware バージョン 7.6.1 の新しい機能、拡張機能および変更が一部記載されています。

- **NetBackup Plug-in for VMware vSphere Web Client**

このプラグインは vSphere Web クライアントの管理コンソールで次の機能を直接実行することを仮想化管理者に許可します。

 - 仮想マシンバックアップの監視とレポート
 - 仮想マシンのセルフサービスリストア
- **VMware 仮想マシンのインスタントリカバリを Linux リストアホストに対応**

インスタントリカバリを実行する NetBackup 7.6.1 のリストアホストには Windows または Linux マシンを指定できます。この機能はインスタントリカバリのリストアホストとして NetBackup アプライアンス 5230 のサポートも追加します。
- **Virtual SAN データストア内に保存されたデータに対する次の拡張 VMware 保護。**
 - Virtual SAN データストアの仮想マシンは NetBackup for VMware のポリシーによって保護
 - Virtual SAN データストアで VIP フィルタによる VM の自動検出
 - Virtual SAN データストアにリソース制限を設定する機能
 - VMFS および NFS のようなその他の VMware データストアタイプとのパリティを保持

Bare Metal Restore

次のリストには、NetBackup 7.6.1 の Bare Metal Restore (BMR) の新しい機能、拡張機能および変更が一部記載されています。

- BMRは、NetBackup 7.6.1 以降を実行している BMR ブートサーバーでの新しいレガシーの SRT の作成をサポートしません。Windows SRT を作成する唯一の方法は Fast Restore を使用することです。レガシー SRT のリストアを行うには、いくつかの方法があります。詳しくは、『NetBackup Bare Metal Restore 管理者ガイド』を参照してください。
- BMR Windows リカバリ環境は Windows Preinstallation Environment (WinPE) はバージョン 3.0 (Windows Server 2008 R2 ベース) からバージョン 5.0 (Windows Server 2012 R2 ベース) にアップグレードされました。

Microsoft はエンタープライズ製品に対する WinPE の組み込みをサポートしなくなりました。それにより、NetBackup BMR 7.6.1 は SRT の作成を行うために組み込まれた WinPE の環境を提供しません。BMR 7.6.1 ブートサーバーを使用して SRT を作成し、リカバリ環境を設定するには、Microsoft ADK が必要になります。詳しくは、『NetBackup Bare Metal Restore 管理者ガイド』を参照してください。

NetBackup 7.6.0.4 の新機能、拡張機能および変更

メモ: このトピックで説明されている項目では、次の NetBackup 7.6.1 リリースとのパリティが保持されていない場合があります。

p.9 の「[NetBackup 7.6.1 リリースラインへのアップグレードパスについて](#)」を参照してください。

次のリストに、バージョン 7.6.0.4 以降の NetBackup の新機能、強化された機能、変更を示します。

- Enterprise Vault 11 のエージェントサポート

メモ: Enterprise Vault 8 から Enterprise Vault 11 以降にアップグレードする場合、バックアップポリシーの修正は必要ありません。

- Windows Server 2012 での Microsoft Cluster Server (MSCS) のサポート
- 次のプラットフォームでの Bare Metal Restore (BMR) のサポート
 - Advanced Format (AF) 512e ディスクが搭載されたコンピュータへの Windows クライアントのリカバリ
- Exchange Server 2010 または Exchange Server 2013 に個別リカバリテクノロジー (GRT) リストアを実行するのに、NetBackup または Network File System (NFS) の Client Service をクライアントアクセスサーバー (CAS) にインストールする必要はなくなりました。また、NetBackup 用の CAS でその他の構成設定を行う必要もありません。NetBackup は、ユーザーが構成または指定する宛先クライアントで Exchange 個別リストアを実行できるようになりました。以前のリリース同様、NetBackup は Exchange Web サービス (EWS) を使用してメールボックスとパブリックフォルダの項目をリストアします。かつて NetBackup は EWS とのインターフェースを取るのにローカルホスト URL を使用していました。したがって、CAS 上で実行する必要がありました。バージョン 7.6.0.3 以降、NetBackup は Exchange Server 2013 に対して GRT サポートを開始しました。NetBackup 7.6.0.3 以降は、ターゲットデータベースにアクセスできるすべての Exchange Server で実行可能になりました。そのクライアント以降、NetBackup には EWS へのアクセスに使用する URL 内に検出された CAS が含まれています。

EWS 関連の属性を設定する PowerShell 構文は、Exchange Server 2013 用と Exchange Server 2010 用とは異なります。Exchange 2013 で NetBackup 7.6.0.3 以降を使用する場合:

```
New-ManagementRole -Name SymantecEWSImpersonationRole -Parent  
ApplicationImpersonation
```

```
New-ManagementRoleAssignment -Role SymantecEWSImpersonationRole
-User NetBackupUser -Name "NetBackupUser-EWSImpersonation"
New-ThrottlingPolicy -Name "SymantecEWSRestoreThrottlingPolicy"
-EwsCutoffBalance "Unlimited" -EwsMaxBurst "Unlimited"
-EwsMaxConcurrency "Unlimited" -ExchangeMaxCmdlets "Unlimited"
-MessageRateLimit "Unlimited" -PowerShellCutoffBalance "Unlimited"
-PowerShellMaxBurst "Unlimited" -PowerShellMaxCmdlets "Unlimited"
-PowerShellMaxConcurrency "Unlimited" -PowerShellMaxOperations
"Unlimited" -RecipientRateLimit "Unlimited" -ThrottlingPolicyScope
"Regular"
```

SAN クライアントでは、メディアサーバーあたりの並列ファイバートランスポート接続の数が増えている

このリリース以降、NetBackup でサポートできるメディアサーバーあたりの並列 FT 接続数が過去のリリースよりも増えました。

NetBackup は [最大並列 FT 接続 (Maximum concurrent FT connections)] ファイバートランスポート ホストプロパティを使用してファイバートランスポートメディアサーバーへの同時接続数を制御します。メディアサーバーが使用する最大接続数として、次の値を入力できます。

- NetBackup 5230 およびそれ以降の重複排除アプライアンス:40。
- Linux FT のメディアサーバーホスト:40。
NetBackup では、Linux で使用する並列接続を 32 以下にすることをお勧めします。
- Solaris FT のメディアサーバーホスト:64。

値を設定しない場合、NetBackup は次のデフォルト値を使用します。

- NetBackup 重複排除アプライアンスモデル 5230 およびそれ以降:32。
- NetBackup ファイバートランスポートメディアサーバーの場合:メディアサーバーの速い HBA ポート数の 8 倍および遅い HBA ポート数の 4 倍。速いポートは 8 GB 以上、遅いポートは 8 GB 未満です。

Linux で使用する同時接続の総数が少なすぎて目的に合わない場合は、同時接続の総数を増やすことができます。その結果、各クライアントのバックアップまたはリストアジョブが使用するバッファが減ります。この場合、バッファが少ないために各ジョブが遅くなります。同時接続数を増やすには、接続ごとのバッファ数を減らしてください。そのためには、次のファイルを作成し、サポートされている値の 1 つをファイルに含めます。

```
/usr/opensv/netbackup/db/config/NUMBER_DATA_BUFFERS_FT
```

表 2-1 は Linux 用の NUMBER_DATA_BUFFERS_FT ファイルに対して NetBackup がサポートしている値を示しています。NetBackup では、ファイバートランスポートメディアサーバーごとに 644 個のバッファをサポートしています。

表 2-1 Linux の FT 接続あたりのサポートされているバッファ値

NUMBER_DATA_BUFFERS_FT	同時接続の総数: NetBackup 5230 以降の プライアンス	同時接続の総数:Linux FT のメディアサーバー
16	40	40
12	53	53
10	64	64

NetBackup 7.6.0.3 の新機能、拡張機能および変更

次のリストに、バージョン 7.6.0.3 以降の NetBackup の新機能、強化された機能、変更を示します。

- 次のコンポーネントに対する Windows Server 2012 R2 サポート:
 - マスターサーバーとメディアサーバー
 - OpsCenter サーバー
 - BMR サーバー
 - Windows Storage Server (メディアサーバー)
 - Symantec Cluster Server powered by Veritas (SFWhA)
 - Microsoft Cluster Server (Windows Server 2012 R2でサポートされている、Windows Server 2012 はサポートされていない)
 - MSDP Client Direct
 - SAN クライアント
- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.5 のFT メディアサーバーのサポート
- Microsoft Exchange 2013 および SharePoint 2013 (Granular Recovery Technology (GRT)を含む)のサポート
- Windows Server 2008/2008 R2/2012/2012 R2 上の Microsoft SQL Server 2014 のサポート
- Windows Server 2012 R2 上の IBM Domino 9.0.1 のサポート
- Windows Server 2012 R2 Update 1 の単一ファイルのリカバリ機能に対する Hyper-V のポリシーサポート
- VDDK 5.5 Update 1 のサポート
- 次のプラットフォームでの Bare Metal Restore (BMR) のサポート

- Windows Server 2012 R2 ブートサーバーとクライアント
- Windows 8.1 クライアント
- Oracle Enterprise Linux (OEL) 5.9 クライアント
- RHEL 6.5 ブートサーバーとクライアント
- RHEL 5.10 ブートサーバーとクライアント

NetBackup ユーティリティの拡張

NetBackup 7.6.0.3 は、NBCC、NBCCA および nbsu ユーティリティを強化します。NBCC、NBCCA の機能強化には、エンドユーザーの使用感を向上させる拡張機能と高優先度の修正が含まれています。これらの修正を通じて、NetBackup のサポート機能は NetBackup のカタログとデータベースに関する一貫性の問題を特定しやすくなります。nbsu バージョン 1.7.1 の拡張には、NetBackup の診断データ収集および NetBackup の問題の診断に関する機能強化が含まれています。

特定の vApps の検索を高速化するクエリービルダーを使用する

大規模 VMware vCloud Director 環境で仮想マシンの検索を高速化するために、NetBackup ポリシーのクエリービルダーのルールで特定の vApps を検索することができます。手順については、次の Symantec のマニュアルを参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/HOWTO99923>

複数のカーネルレベルを跨って選択を行うための新しい BMR ユーザープロンプトの追加

複数のカーネルがあるオペレーティングシステムのインストールメディアを使用している Linux クライアントに対して、Bare Metal Restore (BMR) 共有リソースツリー (SRT) を作成したときに適切なカーネルを選択できるユーザープロンプトが追加されました。

たとえば、Oracle Linux 6.4 のクライアントを作成するときに次のプロンプトが表示されます。

Choose appropriate SRT kernel version for your SRT :

1. vmlinuz-2.6.39-400.17.1.el6uek.x86_64
2. vmlinuz-2.6.32-358.el6.x86_64

Enter your selection [1] :

この例では、デフォルトのカーネルは Oracle の Linux UEK カーネル (vmlinuz-2.6.39-400.17.1.el6uek.x86_64) で、SRT にデフォルトで追加されます。要件によって別のカーネルを選択する必要がある場合もあります。この例では、Windows 2008 R2 の Hyper-V 仮想マシンで動作している Oracle の Linux 6.4 で SRT

が作成された場合に Red Hat Enterprise Linux (RHEL) のカーネル (vmlinuz-2.6.32-358.el6.x86_64) を選択する必要があります。

MSDP pd.conf ファイルの新しいデフォルトの構成パラメータ

Symantec がメディアサーバー重複排除プール pd.conf ファイルの構成パラメータの値を 2 つ変更しました。パラメータと新しい値

```
MAX_LOG_MBSIZE = 100
RESTORE_DECRYPT_LOCAL = 1
```

NetBackup の状態コード: 4243

メッセージ: データストアの利用可能な領域が不足しています。

説明: VMware のデータストアにはスナップショット操作を実行するために十分な領域が含まれていません。

推奨処置: データストアの空き容量を増やし、操作を再試行します。

NetBackup の状態コード: 2821

メッセージ: Hyper-V ポリシーリストアエラー。

説明: Hyper-V のリストア操作で、Hyper-V のホストとメディアサーバー間の接続の問題 bptm によりソケットへの書き込みに失敗します。

推奨処置: 次のように実行します。

- NIC のドライバーおよびファームウェアを必要に応じて更新してください。
- メディアサーバーとクライアント間のネットワークハードウェアが正しく動作するか確認してください。
- ウイルス対策アプリケーションが接続確立されたソケットを閉じる場合があるため、ウイルス対策の除外リストに NetBackup の処理およびディレクトリを追加してください。
- 10 の値を TcpMaxDataRetransmissions レジストリキーを設定することにより、Windows ホスト(マスターサーバー、メディアサーバーおよびクライアント)の TCP の耐性を高めてください。デフォルトの値は 5 です。

TcpMaxDataRetransmissions レジストリキーに関する詳細情報は Microsoft から提供されています。

msdn.microsoft.com/en-us/library/aa915651.aspx

ここをクリックすると、状態コードに関するシマンテック社のナレッジベースのテクニカルノートとその他の情報が表示されます。

NetBackup 7.6.0.2 の新機能、改善および変更

次の一覧には NetBackup バージョン 7.6.0.2 からの新しい機能、改善および変更が一部記載されています。

- NetBackup および NetBackup アプライアンスに対する OpenSSL "Heartbleed" 脆弱性の修正
- Amazon Simple Storage Service (S3) の地域サポート
- NetBackup OpsCenter スケジュールレポートの新しい構成オプション
- バックアップ、アーカイブおよびリストアの各ダイアログでリストア中にメディアサーバーを選択できる新しいオプション
- ファイルレベルでの Granular Recovery Technology (GRT) および vhdX 仮想ハードディスク形式のサポートを含み、Hyper-V Server 2012 R2 に対応
- VMware VDDK 5.5 (vSphere 5.5とvCloud Director 5.5を含む) に対応
p.56 の「[NetBackup for VMware の操作上の注意事項](#)」を参照してください。
- Oracle 12c に対応
p.41 の「[NetBackup for Oracle の操作上の注意事項](#)」を参照してください。
- NetBackup Fibre Transport (FT) メディアサーバーが SLES 11 SP3 に対応
- Bare Metal Restore (BMR) が次のプラットフォームに対応:
 - Windows 8/Server 2012 ブートサーバーとクライアント
 - Solaris 11.1 ブートサーバーとクライアント
 - SUSE 11 SP2 ブートサーバーとクライアント
 - SUSE 11 SP3 ブートサーバーとクライアント
 - Xen 仮想環境の Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6
 - Oracle VM で xvda ディスク形式 Oracle Enterprise Linux

NetBackup および NetBackup アプライアンスに対する OpenSSL "Heartbleed" 脆弱性

NetBackup および NetBackup アプライアンスは CVE-2014-0160 脆弱性 (通称 "Heartbleed" セキュリティバグ) を含む OpenSSL 暗号化ライブラリを使用します。NetBackup では遠隔測定と NetBackup の VMware vCenter プラグイン (vCenter プラグイン) にのみ脆弱性が影響しています。Symantec は NetBackup 7.6.0.2 および NetBackup アプライアンス 2.6.0.2 でこの脆弱性を修正しました。

vCenter プラグインを使用している場合、NetBackup 7.6.0.2 以降にアップグレードした後に Symantec は次の予防措置を行うことを推奨します。

- vCenter プラグインの仮想アプライアンスで
 - 1 仮想アプライアンスのローカルアカウントパスワードを変更します。
 - 2 SSH デーモン(sshd)を明示的に有効にした場合、新しいキーペアを再生成します。
- また、仮想アプライアンスを再インストールして NetBackup のマスターサーバートークンを再度アップロードできます。

この問題の最新情報と NetBackup の環境に対する影響については、Symantec のサポート Web サイトで Tech Note を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH216555>

Amazon Simple Storage Service (S3) のリージョンサポートについて

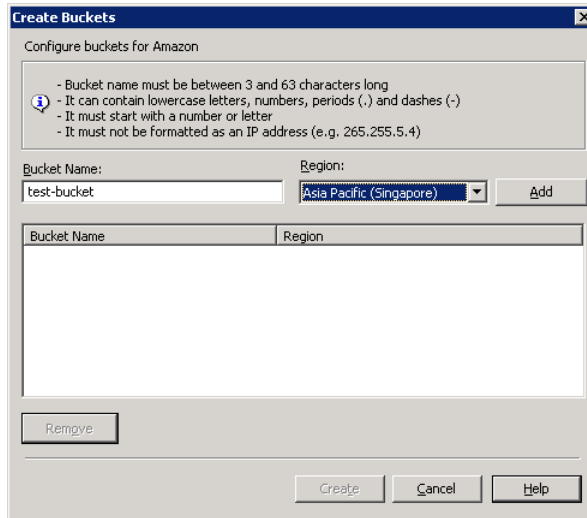
NetBackup 7.6 は、7.6.0.2 リリースからそのリージョンのすべてで Amazon クラウドストレージをサポートします。デフォルトでは、NetBackup は、Amazon クラウドストレージに米国標準リージョンを利用します。

米国標準リージョン以外の Amazon リージョンのサポートには、次のリリースレベルが必要です。

- NetBackup 7.5 メディアサーバーは NetBackup 7.5.0.6 以降を実行する必要があります。
- NetBackup 7.6 メディアサーバーは NetBackup 7.6.0.2 以降を実行する必要があります。

Amazon 対応の NetBackup ディスクプールを設定する場合、Amazon ストレージバケットを作成するリージョンを選択できます。[ディスクプールの構成ウィザード (Disk Pool Configuration Wizard)]の[ボリュームの選択 (Select Volumes)]パネルの[追加 (Add)]ボタンをクリックすると、次のダイアログボックスが表示されます。

図 2-1 [Amazon のバケットの設定 (Configure buckets for Amazon)] ダイアログボックス



NetBackup はバックアップをそのリージョンのクラウドに書き込みます。米国におけるメインの Amazon Web Service ホストを介したトラフィックのルーティングは実行しません。米国標準以外の地域でのバケット名に関する要件を以下に示します。

- バケット名は 3 文字以上、63 文字以下にする必要があります。
- バケット名は、1 つ以上の一連のラベルである必要があります。ラベルには小文字、数字、ダッシュを使うことができます。各ラベルの先頭と最後は小文字または数字である必要があります。単一ピリオド (.) を使って、たとえば、gold.backups.bucket1 のように隣接するラベルを区切ります。
- バケット名は、IP アドレスのような形式にしないでください。

新しい nbdevconfig コマンドオプション (-config)

7.6.0.2 リリースより、nbdevconfig コマンドには、バケットを作成するときに米国標準以外のリージョンを指定するための新しいオプション (-config) が含まれています。-createdv オプションでこのオプションを使って Amazon バケットを作成します。オプションの形式と説明を次に示します。

```
-config region:region-url
```

region-url は次のいずれかである必要があります。

```
ap-northeast-1                    アジア太平洋 (東京)
```

ap-southeast-1	アジア太平洋 (シンガポール)
ap-southeast-2	アジア太平洋 (シドニー)
eu-west-1	欧州連合 (アイルランド)
sa-east-1	南米 (サンパウロ)
us-west-1	米国西部 (北カリフォルニア)
us-west-2	米国西部 (オレゴン)

`region-url` 文字列が表記法に一致しない場合は、バケットは米国標準地域で作成されます。このオプションを省略すると、バケットは米国標準地域で作成されます。

OpsCenter スケジュールが設定されたレポートの設定によるレポート生成の高速化

スケジュールが設定された表形式レポートをエクスポートまたは電子メール送信すると、レポート生成時にデータベースから 1 度に 1000 レコードがフェッチされます。サイズの大きいデータベース (たとえばデータが 50 万行) の場合、スケジュールが設定されたレポートの生成に数時間かかることがあります。

NetBackup OpsCenter 7.6.0.2 以降では、新しいページサイズ設定を使用してスケジュールが設定されたレポートの生成時間を短縮できます。

ページサイズ設定の使用方法

- 1 次の場所の `report.conf` ファイルを開きます。

Windows の場合 `<INSTALL_PATH>%Symantec%\OpsCenter\server\config`

UNIX の場合 `<INSTALL_PATH>/SYMCOpsCenterServer/config`

- 2 `report.export.pageSize` パラメータを追加します。

たとえば、

```
report.export.pageSize = 20000
```

メモ: `report.export.pageSize` パラメータに 50000 を超える値を設定することはお勧めしません。メモリに問題が発生する場合があります。

メモ: この設定は手動でエクスポートしたレポートには適用されません。

3 次のコマンドを使ってすべての OpsCenter サーバーサービスを停止します。

Windows の場合 `<INSTALL_PATH>%OpsCenter%\server%\bin\opsadmin.bat stop`

UNIX の場合 `<INSTALL_PATH>/SYMOpsCenterServer/bin/opsadmin.sh stop`

4 次のコマンドを使ってすべての OpsCenter サーバーサービスを開始します。

Windows の場合 `<INSTALL_PATH>%OpsCenter%\server%\bin\opsadmin.bat start`

UNIX の場合 `<INSTALL_PATH>/SYMOpsCenterServer/bin/opsadmin.sh start`

代替の場所への復元する新しいメディアサーバーオプション

[NetBackup のバックアップ、アーカイブおよびリストア (NetBackup Backup, Archive, and Restore)]ダイアログに新しい復元オプション[メディアサーバー (Media Server)]が組み込まれています。このオプションを使用して、バックアップイメージが含まれるストレージユニットにアクセスするメディアサーバーを選択できます。このような環境の例として複数のメディアサーバーで構成するメディアサーバー重複排除プール (MSDP) があります。

メモ: バックアップイメージを含むストレージユニットが複数のメディアサーバーで共有されていない場合は、このオプションは灰色で表示されます。

操作上の注意事項

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 7.6.1.2 の操作上の注意事項について](#)
- [NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項](#)
- [NetBackup アクセラレータの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup データベースとアプリケーションエージェントの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup 重複排除に関する注意事項](#)
- [NetBackup のマニュアルについての注意事項](#)
- [NetBackup for NDMP の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup OpsCenter の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup レプリケーションディレクトクの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup Snapshot Client の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup 仮想化の操作上の注意事項](#)

NetBackup 7.6.1.2 の操作上の注意事項について

NetBackup の操作上の注意事項は、NetBackup のマニュアルセットまたはシマンテック社のサポート Web サイトのどれにも文書化されない可能性のある NetBackup のさまざまな操作に関する重要な点について説明したものです。操作上の注意事項は、NetBackup の各バージョンに対応する形で『NetBackup リリースノート』に記載されます。通常、操作

上の注意事項には、既知の問題、互換性の問題、およびインストールとアップグレードに関する追加情報が含まれます。

操作上の注意事項は、NetBackup のバージョンがリリースされた後に追加または更新されることがよくあります。この結果、オンラインバージョンの『NetBackup リリースノート』またはその他の NetBackup マニュアルは、リリース後の更新となる場合があります。

NetBackup の指定のリリースに関する最新版のマニュアルセットには、シマンテック社のサポート Web サイトの次の場所でアクセスできます。

<http://www.symantec.com/docs/DOC5332>

p.96 の「NetBackup の関連マニュアルについて」を参照してください。

NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまな方法を使って異機種混合環境でインストールしたり、アップグレードしたりすることができます。NetBackup は、同一環境で混在しているさまざまなリリースレベルの NetBackup サーバーとクライアントとも互換性があります。このトピックでは、NetBackup 7.6.1.2 のインストール、アップグレード、ソフトウェアパッケージに関連する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

p.89 の「NetBackup のリリース形式とバージョン番号について」を参照してください。

インストール DVD を挿入すると表示されるメニューからインストールしないでください

インストール DVD をディスクドライブに挿入すると、オペレーティングシステムのユーザーインターフェースウィンドウ (Solaris の [ファイルマネージャ] など) が開く場合があります。このウィンドウを使用して NetBackup 製品をインストールしないでください。このウィンドウを使用すると、予測できない結果が生じる可能性があります。『NetBackup インストールガイド』に記載されているインストール手順に必ず従ってください。

HP-UX Itanium の vPars SRP のコンテナのサポートについて

HP は HP-UX Virtual Partitions (vPars) を有効にしたサーバに対する新しいコンテナ「Secure Resource Partitions (SRP)」を導入しました。SRP で導入されたセキュリティ変更の一部として、swinstall と swremove などのネイティブ HP-UX インストールツールの SRP 環境内での実行は無効です。swinstall と swremove ツールは vPars を実行しているグローバルホストからのみ呼び出すことが可能で、SRP コンテナにネイティブパッケージをプッシュインストールします。

NetBackup バージョン 7.6.1 以降、HP Itanium SRP コンテナ (プライベートファイルシステム、共有ファイルシステムまたは作業負荷) へのインストールを試行すると、インストー

ルが中止します。グローバルコンテナにインストールすると、グローバルビューにのみインストールするためにパラメータがすべての `swremove` と `swinstall` コマンドに追加されます。

AIX に必要な追加手順

NetBackup 7.5 または NetBackup 7.6 のインストールまたはアップグレードを行うと、一部の AIX バージョンでの応答が停止する場合があります。この問題は、AIX オペレーティングシステムの `vswprintf` の変更が原因です。この変更により MSDP パッケージに付属する `libACE` コンポーネントで未定義の動作が中断します。この問題は次のバージョンで見つかっています。

- AIX 6.1 TL9
- AIX 7.1 TL3

詳細情報が利用可能です。

<http://www.symantec.com/docs/TECH214505>

NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまなプラットフォームに対して、完全かつ柔軟なデータ保護ソリューションを提供します。対象となるプラットフォームには、Windows、UNIX、Linux システムなどが含まれます。データ保護機能の標準セットに加えて、NetBackup は他の複数のライセンス付与されたコンポーネントとライセンス付与されていないコンポーネントを活用して、さまざまな異なるシステムや環境をより強力に保護できます。このトピックでは、NetBackup 7.6.1.2 の管理に関連する一般的な操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NetBackup Audit Manager (nbaudit) で NetBackup サービスをリサイクルするときにコアダンプの問題が起きることがある

NetBackup Audit Manager デーモン `nbaudit` で、通常は NetBackup サービスのリサイクル時にデータベース接続をクリーンアップするときにコアダンプの問題が起きる場合があります。この問題はサービスをシャットダウンするときのみ起きるため、機能には影響がないので操作の必要はありません。

Windows NTFS 変更ジャーナルを含む Client Job Tracker を使わないでください

Windows の NTFS 変更ジャーナルを使う場合には、NetBackup Client Job Tracker を使わないことをお勧めします。

UltraSPARC Tシリーズまたは SPARC T3 アーキテクチャにおける NetBackup 7.x マスターサーバーのパフォーマンス問題発生の可能性

UltraSPARC Tシリーズまたは SPARC T3 アーキテクチャを大規模環境で NetBackup マスターサーバーとして使用する場合、パフォーマンスに問題が生じる場合があります。次の問題が含まれます。

- ストレージライフサイクルポリシー (SLP) 要求に応答しない (nbstlutil が応答を停止)
- データベースコンテンツへのアクセスが遅れる
- カタログの確認および検証クエリーが遅れる
この問題は、保留データベースクエリーで CORBA タイムアウト値よりも時間がかかった場合に発生します。

その他にも問題が報告されています。関連項目は下記のリンクから参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH204332>

NEC_HYDRA ストレージサーバー形式を正しく追加することができない

[ストレージサーバーの構成ウィザード (Storage Server Configuration Wizard)] の [ストレージサーバーの追加 (Add Storage Server)] 手順中に [ストレージサーバー形式 (Storage server type)] として NEC_HYDRA を追加しようとする、テキストオートコンプリート機能が原因でストレージが NEC_HYDRA として追加されます。[ストレージサーバー形式 (Storage server type)] フィールドに NEC_HYDRA と入力すると、インターフェースがサーバー形式にオートコンプリートで NetApp OnCommand サーバー という入力を試みた後に、2 番目の文字 (E) が小文字の e に置き換えられています。NetBackup 環境では NEC_HYDRA エントリは使用できず、ストレージサーバーの作成が失敗します。

この問題を回避するには、[ストレージサーバー形式 (Storage server type)] フィールドに aNEC_HYDRA と入力し、矢印キーを使って戻り、先頭の無関係な小文字 a を削除します。この処理によって、テキストフィールドに NEC_HYDRA だけが残ります。または、コマンド nbdevconfig -createts と tpconfig -add -storage_server を使用する方法もあります。詳しくは、『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

バックアップスクリプトのパスフィールドが自動バックアップのスケジュール向けにアクティブにされていない

[バックアップポリシーの構成ウィザードを使用する] で MS-SQL サーバーポリシーを設定し、[バックアップ形式] を選択するとき、バックアップスクリプトのパスを指定するフィールドは [自動バックアップ] を選択後、アクティブにされません。この問題は NetBackup-Java 管理コンソールのみ影響します。

この問題の詳細と回避策については、Symantec のサポート Web サイトで次の Tech Note を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH222312>

NetBackup アクセラレータの操作上の注意事項

NetBackup アクセラレータは、完全バックアップを高速化します。高速化は、クライアント上の変更検出技術によって実現しています。クライアントは、この変更検出技術とクライアントの最新のファイルシステムを使って、前回のバックアップ以降発生した変更を特定します。このトピックでは、NetBackup アクセラレータ バージョン 7.6.1.2 に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

VMware のアクセラレータバックアップが不正なチェックサムのエラーで断続的に失敗する

Windows プロキシの hotadd トランスポート方法を使用する場合、VMware アクセラレータバックアップはステータスコード 84 および incorrect checksum のエラーで断続的に失敗します。

この問題の詳しい情報および回避策については、Symantec サポート Web サイトの以下のパスを参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH222588>

NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項

NetBackup Bare Metal Restore (BMR) では、サーバーのリカバリ処理が自動化され簡素化されるため、オペレーティングシステムの再インストールまたはハードウェアの構成を手動で実行する必要がなくなります。このトピックでは、NetBackup 7.6.1.2 の BMR に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

Windows x86 (32ビット版) の NetBackup 7.6.0.2 クライアントは仮想インスタンスコンバータとして使うことができない

BMR P2V (physical to virtual) への変換で、NetBackup 7.6.0.2 Windows x86 (32ビット版) のクライアントを仮想インスタンスコンバータ (VIC) として使うことができません。

NetBackup 7.6.0.2 では、Windows x86 の 32 ビット版プラットフォームをサポートしない VMware VDDK 5.5 ライブラリを使うことに注意してください。

BMR は、Windows 8/Server 2012 の一連のリリースで Resilient File System (ReFS) を完全にはサポートしない

BMR は、Windows 8/Server 2012 の一連のリリースで Resilient File System (ReFS) を完全にはサポートしません。

Windows 8/Server 2012 では、ReFS フォーマット済みクライアントボリュームは、リカバリしたデータファイルを含む NTFS フォーマット済みボリュームとしてリストアされます。リストア操作の準備中に次のメッセージが表示されます。

```
The configuration contains volume(s) with ReFS file system.
```

メモ: ReFS フォーマット済みクライアントボリュームは、リカバリしたデータファイルを含む NTFS フォーマット済みボリュームとしてリストアされます。

レガシーのリストアは Windows 8/Server 2012 以降ではサポートされない

レガシーのリストアは Windows 8/Server 2012 以降ではサポートされません。

ZFS ボリュームの他のファイルシステムはサポートされない

ZFS ボリュームの他のファイルシステムはサポートされません。ZFS ボリューム上にファイルシステムを作成した場合には、BMR は ZFS ボリューム上のそれらのファイルシステムのバックアップとリストアをサポートしません。

ブートサーバーは NetBackup 6.5.X と 6.X Windows SRT (共有リソースツリー) の作成をサポートしない

ブートサーバーは NetBackup 6.5.X と 6.X Windows SRT (共有リソースツリー) の作成をサポートしません。ただし、NetBackup 7.x SRT は 7.x 以前の NetBackup クライアントのリストアをサポートします。NetBackup 7.0 以降のバージョンの NetBackup クライアントソフトウェアを含む SRT を使って、以前のバージョンの NetBackup クライアントをリストアできます。

ブートサーバーは 6.5.X と 6.X Windows SRT のコピーをサポートしない

ブートサーバーは NetBackup 6.5.X と 6.X Windows SRT のコピーをサポートしません。

BMR では RIS サーバーのリモートインストールフォルダの場所をリストアしない

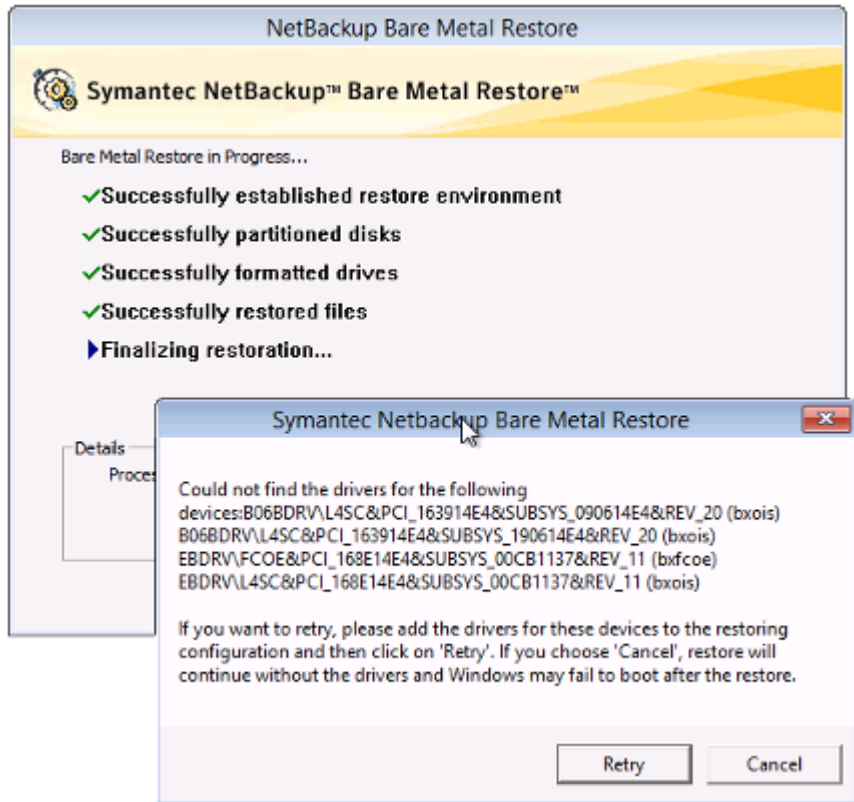
BMR では、RIS サーバーのリモートインストールフォルダの場所のリストアはサポートされていません。System Only 機能を使用して RIS サーバーをリストアできます。また、クライアント構成を編集したり、リモートインストールフォルダの場所で使用されるボリュームをマップから削除することによっても、RIS サーバーをリストアできます。

NetBackup BMR は IPv4 ネットワーク接続を使わないと IPv6 の情報をリストアできない

NetBackup BMR は IPv6 のみのネットワークではリストアできません。BMR は IPv6 情報のバックアップを作成できますが、リストアするには IPv4 ネットワーク接続が必要です。

WinPE の変更が原因で BMR リストア中にドライバがないことを示すメッセージが表示されることがある

コピーしたクライアント構成を使用した BMR 自動 (汎用) リストア中に、[リストアを完了しています (Finalizing restoration)] 手順で、ドライバがないことを示すポップアップメッセージが表示されることがあります。この場合、NetBackup 管理コンソールをチェックして、影響を受けているクライアント構成でドライバが利用可能かどうかを確認してください。利用可能でない場合は、ドライバパッケージウィザードを使用して BMR データベースに必要なドライバを挿入します。



詳しくは、Symantec 社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH223305>

メモ: Broadcom デバイス Cisco 10GigE BCM57810 (NDIS VBD クライアントドライバ) などの一部のデバイスでは、影響を受けているクライアント構成内にドライバが存在するにもかかわらず、ポップアップメッセージが表示される場合があります。この問題は、オペレーティングシステムがそれらのデバイスをネットワークとストレージの両方のクラスのデバイスと見なすために発生します。

このような場合は、[キャンセル (Cancel)]をクリックしてください。リストアはシームレスに続行されます。それでもリカバリが失敗する場合は、Symantec 社のサポートに連絡してください。

代替ドメイン内での複製された BMR イメージの PIT リストアが失敗することがある

Bare Metal Restore (BMR) イメージが自動イメージ複製を使用して、代替の NetBackup ドメインに複製される時、代替のドメイン内のイメージの指定した時点 (PIT) 復元の実行は失敗する場合があります。

この問題の詳細と回避策については、Symantec のサポート Web サイトで次の Tech Note を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH218244>

不合理なメッセージが RAID1 ボリュームがある RHEL クライアントの BMR のリカバリ中に発生する可能性がある

RAID1 ボリュームが設定されている Red Hat Enterprise Linux (RHEL) クライアントの Bare Metal Restore (BMR) のリカバリ中に、クライアントの画面に次のメッセージを受信することがあります。

```
INFO: task mdadm:<pid> blocked for more than 120 seconds
```

このメッセージを無視しても安全です。このメッセージは、mdadm ユーティリティの処理に時間がかかる場合に表示されます。ユーティリティは最終的に終了し、リストアは正常に完了します。

EFI ブートシステムで Windows クライアントを復元した後に追加の手順が必要になる

EFI ブートシステムを使用した Windows クライアントの復元は、現在のところ Fast Restore SRT オプション使用時のみサポートされ、レガシー復元オプションではサポートされません。PXE ブートを使って EFI ブートシステムをリストアする場合は、ブートマネージャを一時的に BIOS に変更する必要があります。最初のブート時のリカバリプロセスの終了時に、ブートマネージャを UEFI モードに戻します。

NetBackup データベースとアプリケーションエージェントの操作上の注意事項

NetBackup には、Oracle、Microsoft SQL Server、Microsoft Exchange Server といったさまざまなデータベースやアプリケーション技術を保護するためのいくつかの方法が用意されています。このトピックでは、NetBackup 7.6.1.2 のデータベース技術の保護に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NetBackup for Exchange と NetBackup for SharePoint の操作上の注意事項

NetBackup for Exchange Server と NetBackup for SharePoint Server は、NetBackup の機能を拡張して、Exchange と SharePoint データベースのオンラインバックアップとリストアを提供します。このトピックでは、NetBackup 7.6.1.2 の NetBackup for Exchange と NetBackup for SharePoint に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

SharePoint 2013 の「Community Site」テンプレートは、Granular Recovery Technology を使うリストアではサポートされない

SharePoint 2013 サイトテンプレートの「Community Site」は、GRT (Granular Recovery Technology) を使う SharePoint 2013 リストアではサポートされていません。

NetBackup は、削除したリストや PerformancePoint Dashboard の SharePoint 2013 のリストアをサポートしない

NetBackup は現在、削除されたリストおよび PerformancePoint Dashboards の SharePoint 2013 GRT リストアをサポートしていません。たとえば、リストの GRT リストアや削除した OneDrive Web アプリを実行すると、Microsoft OneDrive の同期に失敗します。

ファイルシステムへのリダイレクトリストアは GRT を使う SharePoint 2013 バックアップでサポートされない

GRT を使う SharePoint 2013 バックアップでは、ファイルシステムにリダイレクトリストアを実行できません。

SharePoint 2013 サイトテンプレートの「Product Catalog」は、GRT を使う SharePoint 2013 リストアではサポートされない

SharePoint 2013 サイトテンプレートの「Product Catalog」は、GRT を使う SharePoint 2013 リストアではサポートされていません。

詳細なリストアで、チェックアウトしたバージョン付き文書やファイルをスキップする

SharePoint 2010 と SharePoint 2013 では、文書やファイルがバージョン管理で有効になっていてバックアップ時にチェックアウトされると、このような文書やファイルの詳細なリストアはスキップされます。

この問題を回避するには、SharePoint Web アプリケーションコンテンツデータベースをリストアします。詳しくは、『NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』を参照してください。

リストア後に修正済みで非公開のリストアイテムが表示されることがある

SharePoint 2010 と SharePoint 2013 では、カスタマイズしていないバージョン付きリストアイテムを修正後に公開しないと、リストア後にこのアイテムに同一バージョンの複数のエントリが表示されます。修正済みのファイルを公開するとこの問題は起きません。

この問題を回避するには、SharePoint Web アプリケーションコンテンツデータベースをリストアします。詳しくは、『NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』を参照してください。

サイトコレクションのリストア時に、修正したシステムファイルや非実体化ファイルがカタログ登録またはリストアされない

サイトコレクションのリストア時には、修正済みシステムファイルや修正済み非実体化ファイルはカタログ登録もリストアもされません。この問題は SharePoint 2013 で観察されます。

この問題を回避するには、SharePoint Web アプリケーションコンテンツデータベースをリストアします。詳しくは、『NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』を参照してください。

リストアした wiki ページのコンテンツが正しくないことがある

個別リカバリテクノロジー (GRT) 使用して Microsoft SharePoint 2013 の wiki サイトテンプレートのページをリストアすると、問題が起きます。バックアップの作成後にページを変更した場合はリストアしたコンテンツが正しくない場合があります。

この問題を回避するには、SharePoint Web アプリケーションコンテンツデータベースをリストアします。詳しくは、『NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』を参照してください。

ドキュメントライブラリから .CSS ファイルを GRT リストアする処理は失敗するが正常に実行されたように見える

GRT (Granular Recovery Technology) を使って .CSS ファイルをドキュメントライブラリからリストアすると、リストアは正常に実行されたように見えますが、.CSS ファイルは実際にはリストアされません。

この問題を回避するには、SharePoint Web アプリケーションコンテンツデータベースをリストアします。詳しくは、『NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』を参照してください。

SharePoint GRT リストアが正常に実行されたように見えるが、リストアされたページに何も表示されない

個別リカバリテクノロジー (GRT) を使用して、オーディオまたはビデオのコンテンツが含まれていた SharePoint 2013 発行ポータルから削除されたページをリストアすると、リストアは正常に実行されたように見えますが、リストアされたページには何も表示されません。リストア操作が失敗して次のエラーメッセージが表示される場合もあります。

```
The restore failed to recover the requested files. MS-SharePoint  
policy restore error (2804).
```

この問題を回避するには、SharePoint Web アプリケーションコンテンツデータベースをリストアします。詳しくは、『NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』を参照してください。

ブログポストの SharePoint GRT リストアを実行するとコメントが孤立する

個別リカバリテクノロジー (GRT) を使用して SharePoint 2013 のブログポストをリストアするとコメントはリストアされますが、適切なブログポストにリンクされていません。

この問題を回避するには、SharePoint Web アプリケーションコンテンツデータベースをリストアします。詳しくは、『NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』を参照してください。

My Site の SharePoint GRT リストアを実行すると、一部の情報が正確にリストアされない

GRT (Granular Recovery Technology) を使って SharePoint 2013 の My Site (個人サイト) のアイテムをリストアすると、プロフィールの詳細、タグ、フォロー中の相手、個人情報を含む情報の一部が正確にリストアされません。

この問題を回避するには、SharePoint Web アプリケーションコンテンツデータベースをリストアします。詳しくは、『NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』を参照してください。

サイトコレクションではデフォルト以外のテーマが復元されない

SharePoint 用サイトコレクションを復元する場合、デフォルト以外の適用済みテーマはそのサイトコレクションで復元されません。復元後に手動でそのテーマを再度適用する必要があります。この制限はサブサイトの復元には影響しません。

Web パーツがフォーマットを保存しない

サイトコレクションおよびサブサイトのホームページの Web パーツは、サイトコレクションおよびサブサイトのレベルで個別リカバリテクノロジー (GRT) で復元するとき自らのフォーマットを保存しません。

ブログポストの依存アイテムがリストアされない

SharePoint 2013 の場合、ブログポストの依存項目 (コメントや画像) は個別リカバリテクノロジー (GRT) を使うリストアではリストアされません。

Exchange 2010 のパブリックフォルダ項目をサブフォルダにリストアする試行はステータス 5 で失敗する場合があります

Exchange 2010 のパブリックフォルダ項目を作成したことがないサブフォルダにリストアしようとするとき、リストアがステータス 5 で失敗します。次のエラーが進捗ログに表示されません。

```
MNR - error writing file: %1
```

この問題は、次のいずれかの回避策で解決できます。

- リストア操作を再試行します。NetBackup が新しいサブフォルダを作成しようとするときにエラーを受信します。エラーを受信してもサブフォルダは作成されます。同じサブフォルダへリストアを再試行すると、リストアは成功します。
- リストアを試みる前にサブフォルダを手動で作成します。サブフォルダが存在する場合、リストアは成功します。

パブリックフォルダと専用のメールボックス間のリストアがステータス 5 で失敗する場合があります

Exchange 2010 では、次の状況によりリストアがステータス 5 で失敗します。

- パブリックフォルダへの専用のメールボックス項目のリストア
- 専用のメールボックスへのパブリックフォルダ項目のリストア

ncfgr ログで、次のエラーが示されます。

```
EWS Failed to get mailbox properties
```

NetBackup for Microsoft SQL Server の操作上の注意事項

NetBackup for SQL Server は、NetBackup for Windows の機能を拡張したもので、SQL Server データベースのバックアップおよびリストアを行います。これらの機能は、UNIX 版または Windows 版 NetBackup マスターサーバーを使用する Windows クラ

クライアント用に提供されます。このトピックでは、NetBackup 7.6.1.2 の NetBackup for Microsoft SQL Server に関わる操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

SQL Server の VMware バックアップ中に SQL Server のログの切り捨てが失敗することがある

データベース名に特殊文字が含まれたり、%TEMP% ディレクトリのパスが長すぎると、SQL Server の VMware バックアップ中に SQL Server のトランザクションログの切り捨てが失敗することがあります。SQL Server のログの切り捨て中に、SQL Server エージェントの NetBackup は一時ログバックアップを作成します。このバックアップは、ターゲットのバックアップデバイスの一部として現在のユーザーに設定されている %TEMP% ディレクトリおよびデータベース名を指定します。SQL Server では、バックアップデバイスに使用できるパスは 259 文字に制限されています。特定の状況下では、SQL Server エージェントが 259 文字よりも長いバックアップデバイスを生成し、ログの切り捨ての失敗を引き起こすことがあります。

次の状況がこの失敗を引き起こす可能性があります。

- 259 文字よりも長い %TEMP% ディレクトリが構成されている。
- データベース名と %TEMP% ディレクトリのパスを合わせた長さが 259 文字より長い。
- データベース名にバックアップデバイス名でパーセントエンコードされる特殊文字が含まれている。

この問題の回避策としては、パスが 259 文字より短くなるよう %TEMP% ディレクトリを構成することがあります。

NetBackup for Oracle の操作上の注意事項

NetBackup は、Oracle Recovery Manager (RMAN) のデータベースのバックアップ/リカバリ機能と NetBackup のバックアップ/リカバリ管理機能を統合します。このトピックでは、NetBackup 7.6.1.2 の NetBackup for Oracle に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

Oracle Recovery Manager (RMAN) を使わないスクリプトベースの BLI (Block-Level Incremental) バックアップは Oracle 12c でサポートされない

Oracle Recovery Manager (RMAN) を使わないスクリプトベースの BLI (Block-Level Incremental) バックアップは Oracle 12c ではサポートされません。

NetBackup のデバッグログファイルが Windows 上の Oracle 12c で作成されません

この状況は、Windows 上の Oracle 12c のバックアップおよびリストジョブの実行時に発生することがあります。この場合、デバッグログファイルが `dbclient` および `bpdbsbora` フォルダに作成されません。

Oracle 12c リリースでは、Oracle ユーザーは Windows のビルトインアカウント (`LocalSystem` または `LocalService`) または標準の Windows ユーザーアカウントになります。この問題は、標準の (管理者以外の) Windows ユーザーアカウントのセキュリティ権限の設定が原因で発生します。

標準の (管理者以外の) Windows ユーザーアカウントが使われている場合、Oracle ユーザーには `dbclient` および `bpdbsbora` フォルダに書き込む適切な権限がありません。この問題を回避するには、`dbclient` および `bpdbsbora` フォルダに関する Windows のセキュリティ権限を変更して、Oracle ユーザーに **Full control** 権限を付与します。

詳しくは、シマンテック社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH52446>

NetBackup SAN Client を使って Windows 上の Oracle を保護するには、Oracle ユーザーに管理者権限が設定されている必要があります

Oracle Database 12c リリース 1 (12.1) から、Windows 上の Oracle データベースで Oracle ホームユーザーの利用がサポートされるようになりました。Oracle ホームユーザーは Oracle データベースのインストール時に指定され、Oracle ホームの Windows サービスの実行に使われます。Windows サービスの実行に使われる Oracle ホームユーザーは、Linux 上の Oracle データベースの Oracle ユーザーに類似しています。

詳しくは、次の場所にある Oracle マニュアルの「Windows 上での Oracle ホームユーザーのサポート (Supporting Oracle Home User on Windows)」を参照してください。

http://docs.oracle.com/cd/E16655_01/win.121/e10714/oh_usr.htm

NetBackup SAN Client を使う場合、Oracle データベースのインストール時には必ず [Windows ビルトインアカウントの利用 (Use Windows Built-in Account)] を選択してください。このように選択することで、Oracle ホームの Windows サービスが `LocalSystem` または `LocalService` として実行されます。

Oracle データベースのアップグレードによって、NetBackup によって保存されるインスタンス情報が無効になります

Oracle データベースのアップグレードによって、アップグレードされたデータベースのインスタンス情報が無効になります。このインスタンスが 1 つ以上の現在の NetBackup for Oracle Intelligent Policies に関連付けられている場合、ランタイムエラーが発生します。

この問題は、Oracle データベースが新しいバージョンにアップグレードされるときに発生します。新しいバージョンには、異なる ORACLE_HOME、ORACLE_SID、または Oracle ユーザーが設定されている可能性があります。これらの値のいずれかが変更された場合、NetBackup インスタンスリポジトリ内および現在の Oracle Intelligent Policies 内にある既存のインスタンス情報は無効になります。検出サービス (nbdisco) によって、クライアントのポーリングが再び実行されると、データベースは新しいインスタンスとして検出されます。その結果、新しいインスタンスを古いインスタンスに関連付ける方法がなくなります。この問題はバージョン固有のものではなく、次の有効な Oracle アップグレードパスのそれぞれに該当します。

- Oracle 10 からバージョン 11
- Oracle 10 からバージョン 12
- Oracle 11 からバージョン 12

有効な Oracle アップグレードパスの詳細は、Oracle サポート Web サイトにある次のマニュアルを確認してください。

<http://www.oracle.com/technetwork/database/upgrade/upgrading-oracle-database-wp-12c-1896123.pdf>

回避策: 既存の Oracle データベースがアップグレードされ、ORACLE_HOME、ORACLE_SID、または Oracle ユーザーが修正される場合は、インスタンスリポジトリ内の既存のインスタンスを削除します。既存のインスタンスが削除されたら、インスタンスリポジトリを新しいインスタンス情報で更新します。ポリシーは必ず新しく検出されたインスタンスで更新する必要があります。

NetBackup for SAP の操作上の注意事項

NetBackup for SAP は、SAP のデータベースのバックアップおよびリカバリ機能と、NetBackup のバックアップおよびリカバリ管理機能を統合します。このトピックでは、NetBackup 7.6.1.2 の NetBackup for SAP に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

SAP HANA データベースのリカバリがネームサーバーエラーで失敗する

SAP HANA スタジオインターフェースから SAP HANA データベースのバックアップをリカバリしようとする、リカバリが次のエラーメッセージで失敗する場合があります。

```
Failed: start of nameserver failed.
```

この問題は断続的なログバックアップと同時に複数のデータベースのバックアップからリカバリしようとする、発生します。

この問題の詳細については、シマンテック社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH223358>

NetBackup 重複排除に関する注意事項

NetBackup は、必要なぎりデータソースに近い任意の場所でデータを重複排除できるいくつかの重複排除オプションを提供します。任意の場所での重複排除では、バックアップ処理のどの時点で重複排除を実行するかを選択できます。NetBackup は、NetBackup 重複排除エンジンを使用する環境の重複排除を管理できます。この項では、NetBackup 7.6.1.2 の NetBackup 重複排除エンジンに関する注意事項および既知の問題について説明します。

MSDP の互換性に関する最新情報については、次の場所で『NetBackup Enterprise Server and Server OS Software Compatibility List』を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH59978>

Windows 環境では、重複排除カタログ DR ポリシーにより重複排除カタログが保護されない場合がある

Windows 環境では、重複排除カタログ DR ポリシーにより重複排除カタログが保護されない場合があります。この状況を回避するには、MSDP カatalog DR ポリシーで、バックアップ対象のポリシー除外リストに明示的に例外を入力する必要があります。手順について詳しくは、次の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH227467>

NetBackup Deduplication Engine のユーザー名とパスワードは、最大 62 文字で指定する必要がある

NetBackup Deduplication Engine のユーザー名とパスワードは、最大 62 文字で指定する必要があります。クレデンシャルに関するその他の要件および制限を参照できます。

<http://www.symantec.com/docs/DOC5332>

該当リリースの『NetBackup 重複排除ガイド』も参照してください。

新しいバージョンの NetBackup では MSDP 重複排除データベースを大幅に修正する可能性がある

NetBackup の新しいバージョンは、場合によっては基になる MSDP 技術に大幅な変更をもたらす場合もあります。このような種類の変更は、多くの場合にアップグレード時やアップグレード後に MSDP 重複排除データベースを大幅に修正することになります。こ

のような種類の変更例には、NetBackup 7.1 の LZO 圧縮への切り替えや NetBackup 7.6 や 7.6.1 で導入されたデータベース変換があります。

重複排除カタログポリシージョブの状態が 0 を示すが、重複排除カタログを保護しないことがある

NetBackup 重複排除カタログバックアップポリシーが重複排除カタログファイルのバックアップを作成しないシナリオが起きることがあります。ポリシー設定が正しく、バックアップジョブが成功したこと (状態コード 0) を示していても重複排除カタログファイルのバックアップが作成されません。この問題は、ストレージサーバーに NetBackup を再インストールすると起きます。

[重複排除]オプションを使ってメディアサーバーに NetBackup 7.6.1 を再インストールする場合や、別の状況でこの問題が起きる場合はポリシーからクライアント名を削除します。ポリシーが空の場合はそのポリシーを削除します。次に、ポリシーを更新するか、または新しいポリシーを作成します (drcontrol ユーティリティを使用)重複排除カタログバックアップポリシーの作成や更新の方法については、『NetBackup Deduplication Guide』で「Configuring (Updating) an MSDP catalog backup」を参照してください。

NetBackup のマニュアルについての注意事項

シマンテック社は、NetBackup の各コンポーネントのインストールや管理などを説明する技術マニュアルの完全なセットを提供します。マニュアルセットは、ガイド (印刷または PDF)、オンライントピック、NetBackup ソフトウェア組み込みヘルプシステムなどの形式で公開されます。新しいマニュアルは、リリース形式に応じて、各リリースで公開されます。このトピックでは、特定の NetBackup マニュアルに関する前回公開時以降の修正事項およびその他の注意事項について説明します。

p.89 の「NetBackup のリリース形式とバージョン番号について」を参照してください。

p.96 の「NetBackup の関連マニュアルについて」を参照してください。

『NetBackup コマンドリファレンスガイド』の注意事項

この項では、最新バージョンのマニュアルの『NetBackup コマンドリファレンスガイド』に関する修正事項および注意事項について説明します。

nbstl コマンドに関する例が不正確

『NetBackup コマンドリファレンスガイド』の nbstl コマンドの「例」の項にある例 3 に次の不正確なコマンドがあります。

```
# nbstl LCPolicy -dc Gold -uf 0,1,2 -residence DskStU,TpSTU, __NA__  
-pool NetBackup,DLP_Pool1, __NA__ -managed 0,0,0 -rel 6,12,1
```

このコマンドでは `-add` オプションを含める必要があり、`-rel` の代わりに `-r1` を含める必要があります。訂正されたコマンドは次のとおりです。

```
# nbstl LCPolicy -add -dc Gold -uf 0,1,2 -residence  
DskStU,TpSTU, __NA__ -pool NetBackup,DLP_Pool1, __NA__ -managed 0,0,0  
-r1 6,12,1
```

『Symantec NetBackup for Microsoft Exchange Server 管理者ガイド』の注意事項

このトピックでは、ドキュメントの最新版の『NetBackup for Microsoft Exchange Server 管理者ガイド』に関する修正事項および注意事項について説明します。

トピックには更新済みの CAS 要件が反映されていない

Exchange Server 2010 または Exchange Server 2013 に個別リカバリテクノロジー (GRT) リストアを実行するのに、NetBackup または Network File System (NFS) の Client Service をクライアントアクセスサーバー (CAS) にインストールする必要はなくなりました。また、NetBackup 用の CAS でその他の構成設定を行う必要もありません。

『NetBackup for Exchange Server 管理者ガイド』の次のトピックでは CAS の構成について述べていますが、NetBackup 7.6.0.3 以降の CAS では構成は不要になっています。

- NetBackup for Exchange 用 NetBackup クライアントの要件
- クライアントのホストプロパティにおける Exchange クレデンシヤルについて
- NetBackup Exchange 操作のアカウントの構成について
- NetBackup および Microsoft Exchange Web サービスについて (Exchange 2010 と 2013)
- EWS アクセス用の特権付き NetBackup ユーザーアカウントの作成 (Exchange 2010 と 2013)
- Exchange 操作用の NetBackup 最小アカウントの作成 (Exchange 2010 と 2013)
- Exchange ホストの構成
- Exchange 個別リストア用クライアントと非 VMware バックアップ
- Exchange 個別リストア用クライアントおよび VMware バックアップ
- Exchange の個別操作および NetBackup メディアサーバー
- 個別リカバリテクノロジー (GRT) を使う Exchange バックアップの構成 (非 VMware バックアップ)
- Windows 2012 での NFS 用サービスの構成について

- Windows 2008 および Windows 2008 R2 での NFS 用サービスの構成について
- Exchange リストア操作の宛先クライアントの選択について
- 別のデータベースまたはリカバリデータベース (RDB) へのデータベース可用性グループ (DAG) スナップショットバックアップのリダイレクト
- Exchange Server を保護する VMware バックアップの構成について
- Exchange を保護する VMware バックアップを使用した個別リカバリテクノロジー (GRT) の構成
- レプリケーションディレクタを使用して Exchange サーバーを保護する VMware バックアップを構成し、スナップショットレプリケーションを管理する
- Replication Director を使用して Exchange を保護する VMware バックアップで個別リカバリテクノロジー (GRT) を構成し、スナップショットレプリケーションを管理する
- NetApp ディスクアレイで CIFS 共有へのアクセスを使用して NetBackup を構成する
- VMware バックアップからの Exchange データのリストアについて
- bprestore で状態 5 のエラーが発生した Exchange メールボックス操作のトラブルシューティング
- NetBackup Legacy Network Service のログオンアカウントの構成 (Exchange 2010)

『Symantec NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』の注意事項

このトピックでは、ドキュメントの最新版の『NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』に関する修正事項および注意事項について説明します。

Veritas Cluster Server をサポートするという誤った記述

『NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』の NetBackup 7.6 および 7.5 バージョンでは、「クラスタ構成における SQL バックエンドサーバーのインストールの要件」というトピック中で、Veritas Cluster Server (VCS) をサポートしていると誤って記述されています。

NetBackup 7.5 では、SharePoint エージェントは Veritas Cluster Server でクラスタ化された SQL Server のバックエンドを含む SharePoint ファームの保護をサポートしていません。

VCS を SharePoint エージェントでサポートするのは NetBackup 7.1.0.4 以前のバージョンです。詳しくは、Symantec 社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH216356>

『NetBackup Snapshot Client 管理者ガイド』の注意事項

このトピックでは、ドキュメントの最新バージョンの『NetBackup Snapshot Client 管理者ガイド』に関する修正事項および注意事項について説明します。

FlashSnap 方式のスナップショットによるロールバックに関する不完全情報

『NetBackup Snapshot Client 管理者ガイド』の NetBackup 7.6.1 バージョンには、FlashSnap 方式のスナップショットによるロールバックに関する不完全情報が含まれています。トピック「インスタントリカバリについて: 指定した時点へのロールバック」の 5 番目の項目には、正しくは次の内容が含まれます。

- **メモ:** FlashSnap 方式のスナップショットを使用した場合は、インスタントリカバリの指定した時点へのロールバックを実行する前に、マウントされているプライマリファイルシステム上で I/O が実行中でないことを確認してください。

NetBackup 状態コードリファレンスガイドの注意事項

この項では、最新バージョンのマニュアルの『NetBackup 状態コードリファレンスガイド』に関する修正事項および注意事項について説明します。

状態コード 25 および 50 の追加処理

NetBackup 検索機能を使用するとき、インデックスジョブが失敗する場合、VNET_OPTIONS の max_timeout パラメータを高める nbsetconfig コマンドを使用します。たとえば、

```
# nbsetconfig VNET_OPTIONS = 300 3600 200 40 3 1 30 5 1793 32 0 0  
max_timeout はシリーズ(300)の最初のパラメータです。
```

『NetBackup for VMware 管理者ガイド』の注意事項

この項では、マニュアルの最新バージョンの『NetBackup for VMware 管理者ガイド』に関する修正事項および注意事項について説明します。

ディスクの種類のリストが不完全

『NetBackup for VMware 管理者ガイド』のトラブルシューティングトピック「VMware virtual machine does not restart after restore」に、ディスクの種類の不完全なリストがあります。このトピックで説明しているディスクの種類のリストには、(SCSI や IDE と同様) SATA が含まれるはずですが。

SAN トランスポートモードについての不完全情報

バージョン 7.6 用『NetBackup for VMware 管理者ガイド』のトピック「リストアの注意事項および制限事項」の 1 つに SAN トランスポートモードに関する不完全情報が含まれています。事項は次のように訂正する必要があります。

- SAN トランスポートモードと Windows 2008 R2 または 2012 上のリストアホストでは、データストアの LUN がオフラインだとリストアが失敗します。状態の詳細ログには次のようなメッセージが含まれます。

```
5/22/2013 4:10:12 AM - Info tar32(pid=5832) done. status: 24:  
socket write failed  
5/22/2013 4:10:12 AM - Error bpbrm(pid=5792) client restore EXIT  
STATUS 24: socket write failed
```

- リストアホストの SAN ディスクの状態がオフラインではなくオンラインであることを確認してください。ディスクの状態は、Windows `diskpart.exe` ユーティリティまたはディスク管理ユーティリティ (`diskmgmt.msc`) を使って、確認したり変更することができます。ディスクの状態が「オンライン」となっている場合、リストアを再試行します。
- マルチパスが有効な場合、すべてのパスがオンラインであることを確認します。

hotadd トランスポートモードについての不完全情報

バージョン 7.5 および 7.6 の『NetBackup for VMware 管理者ガイド』のトピック「hotadd トランスポートモードに関する注意事項」には hotadd トランスポートモードに関する不完全情報が含まれています。トピックは VM のリストア問題の原因としてバックアップの VM がバックアップホストのクローン時にディスクングネチャの競合を識別する必要があります。

この問題についての詳しい情報は次の NetBackup 互換性ドキュメントの「Windows のディスクングネチャの競合によって引き起こされる Hotadd バックアップ問題」セクションで見つけることができます。

<http://www.symantec.com/docs/TECH127089>

SAN 接続の推奨事項に関する不正確な記述

バージョン 7.6 用『NetBackup for VMware 管理者ガイド』のトピック「VMware 機能のインスタントリカバリにおけるパフォーマンスに関する推奨事項」に SAN 接続に関する次の不正確な記述が含まれています。

- NetBackup メディアサーバーとその ESX ホストのディスクストレージユニットからの SAN 接続

この箇条書きの記述は次のように修正する必要があります。

- NetBackup メディアサーバーからディスクストレージユニットへの SAN 接続

『NetBackup Plug-in for VMware vCenter ガイド』の注意事項

この項では、マニュアルの最新バージョンの『NetBackup Plug-in for VMware vCenter ガイド』に関する修正事項および注意事項について説明します。

Microsoft クラスタサービスに関する Web サービスの有効化で抜けている手順

vCenter 用 NetBackup プラグインの有効化において、『VMware vCenter 用 NetBackup プラグインガイド』では Microsoft Cluster Service (MSCS) に関する手順が抜けています。NetBackup マスターサーバーが MSCS クラスタにある場合は、ドメインユーザーの設定を検証する必要があります。

更新済みの手順について詳しくは、シマンテック社の次のオンライントピックを参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/HOWTO92103>

『NetBackup Plug-in for vSphere Web Client ガイド』の注意事項

このトピックでは、ドキュメントの最新バージョンの『NetBackup Plug-in for vSphere Web Client ガイド』に関する修正事項および注意事項について説明します。

NetBackup Web サービスのためにポートを構成する目的で示されている不適切なディレクトリパス

『NetBackup Plug-in for vSphere Web Client ガイド』の「NetBackup Web サービスのためのポート構成」に記されている手順 3 (クラスタ環境でのマスターサーバー用) には、次の不適切なパスが含まれています。

```
/usr/opensv/netbackup/var/global/wsl/portfile
```

正しいパスは次のとおりです。

```
/usr/opensv/var/global/wsl/portfile
```

認証トークンを作成する目的で示されている不適切なディレクトリパス

『NetBackup Plug-in for vSphere Web Client ガイド』の「vSphere Web Client 用 NetBackup プラグインのための認証トークンの作成」に記されている手順 1 には、次の不適切なパスが含まれています。

```
/usr/opensv/wmc/bin/install /manageClientCerts -create  
vCenter_plugin_host
```

正しいパスは次のとおりです。

```
/usr/opensv/wmc/bin/install/manageClientCerts -create  
vCenter_plugin_host
```

NetBackup for NDMP の操作上の注意事項

NetBackup for NDMP は、NetBackup のオプション製品です。Network Data Management Protocol (NDMP) を使用して、NetBackup で Network Attached Storage (NAS) システムのバックアップおよびリストアを開始および制御できます。このトピックでは、NetBackup 7.6.1.2 の NetBackup for NDMP に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NDMP 多重化 (MPX) リストアが過度のログメッセージを生成したことが原因で、アクティビティモニターがハングアップすることがある

NetBackup NDMP 多重化 (MPX) リストアが、bptm ログに多すぎる数のメッセージを生成したことが原因で、bptm プログラムやアクティビティモニターがハングアップすることがあります。この問題は NON_MPX_RESTORE touch ファイルが NetBackup マスターサーバーに存在する場合に起きます。この問題は、UNIX と Windows 両方のプラットフォームの NDMP MPX リストアにのみ該当します。

この問題の回避策は、Symantec 社のサポート Web サイトにある次の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH207556>

ワイルドカードを使うと、NDMP バックアップがステータスコード 106 で失敗する場合があります

Node Scope Mode (NSM) で設定されている NetApp の cDOT バージョン 8.2 ファイラ用のバックアップ選択項目にあるフォルダまたはボリュームの指定にワイルドカード (*) を使用する場合、NDMP バックアップはステータスコード 106 (invalid file pathname found, cannot process request) で失敗します。たとえば、cDOT ファイラ用の次のバックアップ選択項目を用いる NDMP のバックアップポリシーは失敗します。

```
/vol/MyVolume/myDir*
```

この問題を回避するためには、cDOT ファイラ用の NDMP バックアップポリシーのバックアップ選択項目でフォルダまたはボリュームの指定にワイルドカード文字を使用しないでください。

ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないことがある

NetBackup のネットワークデータ管理プロトコル (NDMP) バックアップポリシーをバックアップ選択項目の `set type=tar` 指示句で設定している場合に、問題が起きることがあります。増分 NDMP バックアップが保存するファイルのパスの親ディレクトリはバックアップイメージに存在しない場合があります。この問題について詳しくは、Symantec 社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH202412>

NetBackup OpsCenter の操作上の注意事項

NetBackup OpsCenter は Web ベースのソフトウェアアプリケーションで、これを使用すると組織のデータ保護環境での表示が可能になります。NetBackup OpsCenter を使用すると、包括的なレポートを生成し、バックアップ操作の効果を追跡できます。このトピックでは、NetBackup 7.6.1.2 の OpsCenter に関連する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

メモ: OpsCenter は NetBackup Operations Manager (NOM) と Veritas Backup Reporter (VBR) を 1 つにまとめたもので、Symantec NetBackup OpsCenter と Symantec NetBackup OpsCenter の 2 つのバージョンで利用可能です。NetBackup 7.0 以降、NOM は OpsCenter に置き換えられています。現在の NetBackup 環境に NOM または VBR が含まれている場合は、OpsCenter の新しいバージョンにアップグレードする前に、まず OpsCenter 7.0 または 7.1 にアップグレードする必要があります。

OpsCenter のアップグレードについて詳しくは、『NetBackup OpsCenter 管理者ガイド』を参照してください。

OpsCenter で NetBackup 6.x をサポートしない

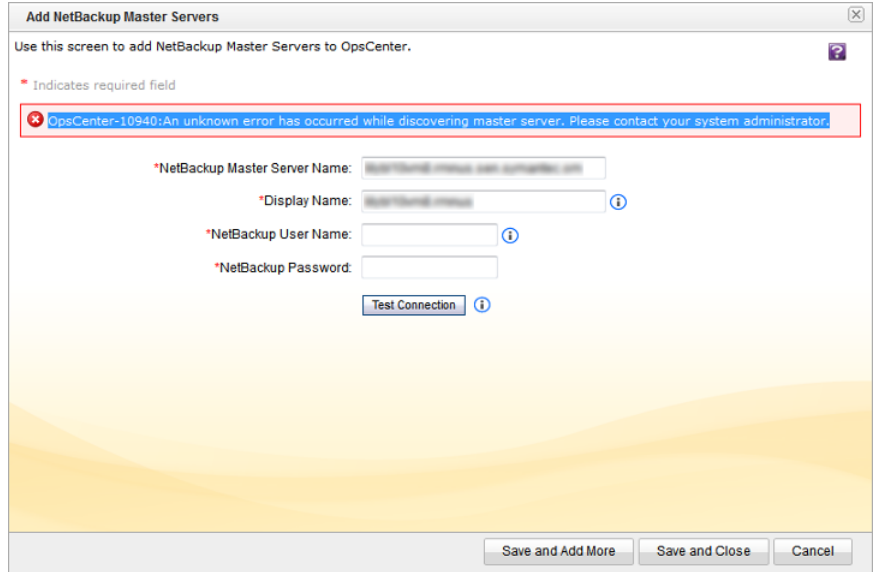
バージョン 7.6.1 以降では、NetBackup OpsCenter は NetBackup 6.x をサポートしなくなりました。

database.conf がデフォルト以外のインストール場所为上書きされる

NetBackup OpsCenter 7.6 または 7.6.1 にアップグレードするときにデフォルト以外の場所にインストールしたい場合は、バックアップディレクトリとは異なるインストールディレクトリを選択します。両方のディレクトリが同じであると `database.conf` (バックアップファイル) が上書きされ、OpsCenter サービスを開始しません。

OpsCenter インターフェイスがマスターサーバーへの接続に失敗した後で不特定のエラーを返す

[開始 (Getting Started)] > [NetBackup マスターサーバーを追加 (Add NetBackup Master Servers)] で、指定したマスターサーバーに NetBackup OpsCenter サーバーが接続できない場合、OpsCenter は不明なエラーを返します。



正しい NetBackup マスターサーバー名を指定したこと、およびマスターサーバーがネットワークに接続されていることを確認します。

NetBackup ディスクプールのサイズと使用率の比較レポートに不正なデータが表示される

OpsCenter の NetBackup ディスクプールのサイズと使用率の比較レポートは、OpsCenter に 1 日以上ディスク プール サイズ データがないとき不正なデータを示す場合があります。

この問題は、レポートがディスクのプールサイズを毎日計算し、レポートで平均値を示すために発生します。選択されたレポートの対象期間にデータが不足している場合、不正な平均データが作成されます。

OpsCenter のレポートに仮想マシン用の IP アドレスが表示される

OpsCenter のレポートにはリストされているいくつかの仮想マシン (VM) の IP アドレスが表示されます。OpsCenter は、情報が利用可能の場合にそれぞれの仮想マシン名およ

びホスト名で IP アドレスのエイリアス処理を試みます。レポートにエイリアスが反映するには、OpsCenter サービスを再起動する必要があります。仮想マシン名およびホスト名が OpsCenter データベース内に存在していない場合、仮想マシンの IP はレポートに表示されません。

OpsCenter が Windows Server 2012 R2 で不正な OS レベルを表示する

NetBackup OpsCenter は Windows Server 2012 R2 マスターサーバーホストで不正なオペレーティングシステムを表示します。「Windows Server 2012 R2」の代わりに、OpsCenter は [設定] > [構成] > [NetBackup] 下の [オペレーティングシステム] 列で「Windows Server 2012」を表示します。

OpsCenter の検索機能の保留操作が失敗する可能性がある

OpsCenter に機能解除 NetBackup マスターサーバーがある場合に、NetBackup OpsCenter の [検索と保留] 機能の保留操作は失敗する可能性があります。

この問題は次の事項がある場合に発生する可能性があります。

- OpsCenter で NetBackup のバックアップイメージに対して検索条件の作成と実行が行われる。
- OpsCenter に追加された後、NetBackup で機能解除されたマスターサーバーが検索結果に含まれている。

保留操作を実行すると、操作が失敗し、次のエラーが[保留エラーの詳細]の下に表示されます。

```
Master Server Not Connected
```

Windows コンピュータ上のリモート OpsCenter View Builder から OpsCenter サーバーにアクセスする際の問題

OpsCenter データベースをホストしていない Windows コンピュータ上のリモート OpsCenter View Builder を使用する場合は、データベース接続の問題が発生する場合があります。

この問題は次のいずれかのシナリオで発生します。

- OpsCenter サーバーのネットワーク名とホスト名が一致しないとき
- OpsCenter サーバーホストとリモート View Builder ホストが別々のドメインにあるとき

この問題を回避するには、次の手順を実行します。

1. OpsCenter サーバーのホスト名を View Builder の etc/hosts ファイルに追加します。

2. View Builder のホスト名を OpsCenter サーバーの `etc/hosts` ファイルに追加します。

メモ: ホストの短縮名および完全修飾ドメイン名 (FQDN) を `etc/hosts` ファイルに追加します。

NetBackup レプリケーションディレクタの操作上の注意事項

レプリケーションディレクタは NetBackup OpenStorage の管理対象スナップショットおよびスナップショットレプリケーションの実装であり、スナップショットはパートナー企業のストレージシステムに格納されます。レプリケーションディレクタは、メディアサーバーの OpenStorage プラグインを使用して、ディスクアレイと通信し (ストレージサーバーを介して)、データ移動を要求します。OpenStorage パートナーは、NetBackup とディスクアレイ間の通信を可能にするソフトウェアプラグインもホストします。このトピックでは、NetBackup 7.6.1.2 のレプリケーションディレクタとその関連プラグインに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NetBackup Snapshot Client の操作上の注意事項

NetBackup Snapshot Client は NetBackup に各種のスナップショットベースの機能を提供します。ファイバーチャネルネットワーク (SAN) または従来の LAN に接続されている UNIX、Linux および Windows プラットフォームのクライアントがサポートされています。それぞれのスナップショット方式は、データが格納されるストレージサブシステムに組み込まれているスナップショットテクノロジーに依存します。この項では、NetBackup 7.6.1.2 の Snapshot Client に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

UNIX ファイルシステムで `nbu_snap` を使っている場合に、NetBackup は拡張ボリューム目次または EFI ラベルをサポートしない

UNIX ファイルシステム (UFS) で `nbu_snap` が使用されている場合、NetBackup では現在、拡張ボリューム目次 (VTOC) または EFI ラベルをサポートしていません。UFS と `nbu_snap` が一緒に使われている場合、NetBackup ではディスクの有効限界値 1TB (パーティションサイズを問わない) をサポートしています。

1TB を超えるサイズのディスクで `nbu_snap` を使用するには、UFS の代わりに VxVM を使用する必要があります。

MS-Windows スナップショットポリシーにより、ドライブ文字の後にバックスラッシュが付きます。

MS-Windows ポリシーにスナップショット方式を設定するときに、バックアップ対象リストでドライブ文字の後にバックスラッシュ(¥)を入力する必要があります。

たとえば、設定したポリシーで VxVM スナップショット方式を使うために[バックアップ対象]リストにバックスラッシュを含めないと、NetBackup カタログにスナップショットイメージは表示されません。

正しい構文 F:¥

正しくない構文 F:

NetBackup 仮想化の操作上の注意事項

NetBackup には、仮想環境を保護するためのいくつかの方法が用意されています。NetBackup は、主に VMware と Hyper-V という 2 つの仮想化技術を保護できますが、その他の仮想化技術も保護できます。このトピックでは、NetBackup 7.6.1.2 による仮想化技術の保護に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NetBackup for VMware の操作上の注意事項

NetBackup for VMware は、VMware ESX Server 上で動作する VMware 仮想マシンのバックアップおよびリストアを実現します。また、VMware vCenter 用 NetBackup プラグイン (vCenter プラグイン) を使うと、vSphere Client で仮想マシンのバックアップを監視し、バックアップから仮想マシンをリカバリすることができます。このトピックには、NetBackup for VMware および NetBackup 7.6.1.2 の vCenter プラグインに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

VMware のバックアップで VMware vCenter コンピューティングとネットワーク負荷が削減される

このリリースの変更点として、vCenter サーバーで NetBackup VMware インテリジェントポリシーのスナップショットとバックアップのジョブに必要な CPU 処理が削減されました。スナップショットとバックアップに使うネットワーク帯域幅も削減されました。したがって、NetBackup VMware インテリジェントポリシーのスナップショットジョブとバックアップジョブのパフォーマンスが向上して vCenter に与える影響が減りました。

手動で選択した VMware バックアップポリシーのパフォーマンスは変更されません。

仮想マシンの表示名にピリオド(.)が含まれると、スタンドアロンの ESXi 6.0 ホストに VM をリストアできない

VM の表示名にピリオド (.) が含まれると、スタンドアロンの ESXi 6.0 ホストに VM をリストアできないことがあります。リストアジョブは NetBackup の状態 2820 を報告し、アクティビティモニタージョブの詳細に次のようなメッセージが表示されます。

```
05/19/2015 10:56:30 - Info bpVMutil (pid=6884) INF - vmwareLogger: WaitForTas
05/19/2015 10:56:30 - Info bpVMutil (pid=6884) INF - vmwareLogger: WaitForTas
05/19/2015 10:56:30 - Info bpVMutil (pid=6884) INF - vmwareLogger: CreateVm:
05/19/2015 10:56:30 - Info bpVMutil (pid=6884) INF - vmwareLogger: CreateVirt
05/19/2015 10:56:30 - end Restore; elapsed time 0:00:17
NetBackup VMware policy restore error (2820)
```

ESXi サーバーの[タスク (Task)]リストに、「仮想マシンの作成」タスクが「ファイルはすでに存在します」という状態で失敗したことが示されます。

回避策として、ピリオド (.) を含まない表示名で VM をリストアします。

メモ: この問題は、VM をスタンドアロンの ESXi 6.0 サーバーにリストアするときのみ起きます。VM を vCenter サーバーでリストアする場合には起きません。

Linux で一貫したデバイス名を付けないと個々のファイルリカバリが複雑になる

永続的なデバイス命名規則を使っていない Linux VM の場合は、複数のディスクコントローラ (IDE、SCSI、SATA) が個々のファイルのリカバ리를複雑にすることがあります。この問題は、/dev/sda や /dev/sdb のような非永続的なデバイス命名規則が原因で発生します。VM に SCSI ディスクと SATA ディスクがある場合には、バックアップ、アーカイブ、リストアインターフェースは VM のファイルの誤ったマウントポイントを示すことがあります。たとえば、元々 /vol_a にあったファイルが、リストアしようとして参照すると /vol_b の下に表示されることがあります。リストアは正常に終了しても、リストアされたファイルが元のディレクトリに存在しない場合があります。

回避策として、リストアした VM のファイルを検索して適切な場所に移動します。

複数のディスクコントローラを備えた Linux VM でこの問題を防ぐため、ファイルシステムのマウントに永続的なデバイス命名方法を使うことを推奨します。永続的な命名規則を使うとデバイスのマウントに一貫性が生じ、今後、バックアップからファイルをリストアしてもこの問題は起きません。

永続的なデバイス命名規則では、UUID を使ってデバイスをマウントできます。次に、UUID を使ってマウントしたデバイスを含む /etc/fstab ファイルの例を示します。

```
UUID=93a21fe4-4c55-4e5a-8124-1e2e1460fece /boot ext4 defaults
UUID=55a24fe3-4c55-4e6a-8124-1e2e1460fadf /vola ext3 defaults
```

デバイスの UUID を見つけるには、次のコマンドのどちらかを使います。

- blkid
- ls -l /dev/disk/by-uuid/

メモ: NetBackup は永続的なデバイス命名規則の by-LABEL 方式もサポートします。

LVM ボリューム名で禁止される特殊文字

ファイルマッピングを必要とする Linux 仮想マシンバックアップの場合、LVM ボリュームの名前に次の特殊文字のいずれかを含めることができます。

- 。(ピリオド)
- _ (アンダースコア)
- -(ハイフン)

他の特殊文字はサポートされません。ボリューム名に他の特殊文字が使われている場合、ポリシーオプション[VM バックアップからのファイルリカバリを有効にする (Enable file recovery from VM backup)]は機能しません。その結果、そのボリュームから個々のファイルをリストアすることはできません。

NetBackup Accelerator が VM のテンプレートバックアップをサポートしない

VMware が課す制限により、BLI バックアップ (BLIB) は VMware のテンプレートではサポートされません。その結果、NetBackup Accelerator は VMware 仮想マシンテンプレートのバックアップをサポートしません。

ディスクの種類が混在している論理ボリュームに設定した仮想マシンで、ファイルリカバリが失敗する

論理ボリューム (LVM または LDM) で設定した仮想マシンでは、問題が発生することがあります。[VM バックアップからのファイルリカバリを有効にする (Enable file recovery from VM backup)]オプションを使ったバックアップは、次のようにボリュームディスクセットに複数のディスクの種類が混在している場合に失敗します。

- 論理ボリュームセットのディスクの一部が通常の仮想ディスク (通常の VMDK)
- 同じボリュームセットのディスクの一部が独立したディスクまたは RAW デバイスマップモード (RDM) の物理ディスク

この場合にはバックアップジョブは状態 6「バックアップは、要求されたファイルのバックアップに失敗しました」を返します。VxMS のログには「bitmap read failed」というメッセージが表示されます。

注意: VMware バックアップホストでは、VxMS のログは次のディレクトリにあります。

- Windows の場合

```
install_path¥NetBackup¥logs¥vxms
```

- UNIX の場合

```
/usr/opensv/netbackup/logs/vxms
```

VxMS のログ記録について詳しくは、次の場所から利用可能な『NetBackup for VMware 管理者ガイド』を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/DOC5332>

回避策: ポリシーの次の最適化オプションが無効であることを確認します。

- VM バックアップからのファイルリカバリを有効にする (Enable file recovery from VM backup)
- 削除されたブロックのエクスクルード (Exclude deleted blocks)
- スワップおよびページングファイルのエクスクルード (Exclude swap and paging files)

hotadd や SAN トランスポートモードを使っている VDDK 5.1 バックアップにメタデータの変更が含まれない

VMware VDDK 5.1 では、hotadd または SAN トランスポートモードを使うバックアップはバックアップに VM のメタデータ変更を含んでいません。NetBackup ジョブの状態ログに次のようなメッセージが記録されます。

```
07/25/2013 12:37:29 - Info tar (pid=16257) INF - Transport Type  
= hotadd  
07/25/2013 12:42:41 - Warning bpbrm (pid=20895) from client  
<client_address>: WRN - Cannot set metadata (key:geometry.  
biosSectors, value:62) when using san or hotadd transport.
```

回避策として、異なるトランスポートモード (nbd または nbdssl) でバックアップを再試行します。

この問題は VMware の既知の問題です。詳しくは、次の URL で VMware VDDK 5.1 リリースノートを参照してください。

<http://www.vmware.com/support/developer/vddk/VDDK-510-ReleaseNotes.html#knownissues>

シンプロビジョニングディスクの VDDK のリストアに失敗する

VMware は、ローカルストレージに存在するシンプロビジョニングのディスクのリストアを妨げる場合がある VDDK の問題を識別しました。VM をリストアしようとする、次のような場合にリストアジョブが失敗します。

- リストアのトランスポートモードとして `nbd` も `nbdssl` も選択されていない
- リストアする VM にシンプロビジョニングのディスクがある
- ディスクが直接接続されたデバイス上にある (ネットワークデバイス、SAN デバイス、または iSCSI デバイス上ではない)

VM をリストアするには、NetBackup のバックアップ、アーカイブ、リストアインターフェースの [リカバリオプション (Recovery Options)] ダイアログボックスで、トランスポートモードとして `nbd` または `nbdssl` を選択します。

この問題の詳細については、次の VMware VDDK 5.1 のリリースノートの「VixDiskLib はディスクを開く際に SAN のアクセシビリティを確認する必要がある」を参照してください。

<http://www.vmware.com/support/developer/vddk/VDDK-510-ReleaseNotes.html>

NetBackup が vCloud Director バックアップ中に vCloud カタログ名と vApp テンプレートの有効期限の状態を記録できない

vCloud Director のバックアップ時に次のどちらかの事例で、NetBackup が vCloud カタログの名前と vApp テンプレートの有効期限の状態を正しく記録できないことがあります。

- 同じ名前の 2 つの vApp テンプレートが同じ vCloud Director 組織にある
- 多数の vApp テンプレートが同じ vCloud Director 組織にある

バックアップを作成する VM の検出時に、vCDCatalog または vCDIsExpired を使ったポリシーのクエリルールが正しくない結果を返すことがあります。

VM をリストアするときに、vCloud Director カタログの有効期限の状態と名前の値が正しくないことがあります。

vCloud Director キーワードが適切なコンピュータを選択しない

クエリビルダーを使って自動的に vCloud Director で VM を選択するポリシーでは、vCDIsExpired キーワードは予測どおりに動作しません。vCDIsExpired キーワードは期限が切れた VM を正しく選択します。ただし、実行時のリリースの設定を「期限切れにならない」に設定している vApp の VM も選択します。この問題は、将来のリリースで修正される予定です。

デュアルブート VM のサポート外機能

次の機能は、デュアルブート仮想マシンの構成ではサポートされません。

- VM バックアップからのファイルリカバリを有効にする (Enable file recovery from VM backup)
- 最適化 (Optimizations)

- 削除されたブロックのエクスクルード (Exclude deleted blocks)
- スワップおよびページングファイルのエクスクルード (Exclude swapping and paging files)
- ブートディスクのエクスクルード (Exclude boot disk)
- データディスクのエクスクルード (Exclude data disks)

Hotadd または SAN のリストアはバックアップイメージディスクのジオメトリが VM のデフォルト値と異なると失敗する可能性がある

hotadd トランスポートモードまたは SAN トランスポートモードにおける VM のリストアは、バックアップイメージの VM ディスクのジオメトリが VM のデフォルト値と異なる場合に失敗することがあります。VM ディスクジオメトリは、vmdk ファイルで指定される仮想ディスクのレイアウト (シリンダ、ヘッド、セクタ) を参照します。

NetBackup のリストアジョブは、状態コード 1 ([要求された操作は部分的に成功しました (the requested operation was partially successful)]) で部分的な成功を報告します。この問題とその有効な回避策について詳しくは、Symantec 社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH210611>

メモ: リストアされた VM が起動しないことがあります。VMware 社は、VDDK 5.1 リリースノートの既知の問題と回避策の「HotAdd および SAN トランスポートでは、メタデータの書き込みはサポートされません」でこの問題の原因を説明しています。

<http://www.vmware.com/support/developer/vddk/VDDK-510-ReleaseNotes.html>

仮想マシンのリストアが状態コード 220 (データベースシステムのエラー) で失敗する

仮想マシンのリストアは、バックアップに関する次のすべてが当てはまる場合、状態コード 220 (データベースシステムエラー) で失敗する場合があります。

- バックアップが増分スケジュールから実行され、ポリシーの VMware タブで [Block Level Incremental (BLI) バックアップを有効にする (Enable block-level incremental backup)] が有効になっている。
- ポリシーの VMware タブで [VM バックアップからのファイルリカバリを有効にする (Enable file recovery from VM backup)] が無効になっている。
- 増分バックアップ時、VM のデータが以前のバックアップから変更されていない。

この問題を回避するには、増分イメージよりも完全イメージからリストアします。完全バックアップより後にデータの変更がないので、完全イメージからのリストアは増分バックアップからのリストアとまったく同じになります。

Linux と Windows のデュアルブート VM でサポートされない VM バックアップからのファイルリカバリ

NetBackup for VMware は Linux と Windows のデュアルブート VM ではポリシーの [VM バックアップからのファイルリカバリを有効にする (Enable file recovery from VM backup)] オプションをサポートしません。[VM バックアップからのファイルリカバリを有効にする (Enable file recovery from VM backup)] を選択すると、バックアップは状態コード 13 (ファイル読み込み失敗) で失敗します。

VM を自動的に選択するポリシーのバックアップデータに整合性がない

VM を自動的に選択する VMware ポリシーに対して、バックアップデータは次のどちらかで不整合になることがあります。

- VMware の 2 つのポリシーが同時に実行され、ポリシーが両方とも同じ VM のバックアップを作成している。
- バックアップ中に NetBackup 以外のコンポーネントによってスナップショットが作成、復帰、統合、または削除された。

この場合、2 番目のバックアップジョブが、1 番目のバックアップが完了する前にスナップショットを削除する可能性があります。その結果、1 番目のバックアップで取得されたデータが不整合になることがあります。VMware 用の Replication Director を使うと、データの不整合は VM がハードウェアスナップショットから複製される、VM にインデックス処理が行われる、VM がリストアされるのいずれかが起きるまで検出されません。複製、インデックス処理、またはリストア操作は失敗することがあります。

クエリービルダーを実行すると、仮想環境に対する変更がデフォルトの検出間隔 (1 時間) より速く検出される

デフォルトでは、NetBackup はポリシーのクエリービルダーが仮想環境の変更を検出するまで 1 時間待ちます。1 時間が経過するまで、[値 (Value(s))] フィールドの隣にある [値をロードする (Load values)] アイコンをクリックしてもクエリービルダーは変更を検出しません。[値 (Value(s))] フィールドへの変更をすぐに利用できるようにするには、次の手順を使って表示を更新してください。

メモ: 問い合わせビルダーの [VM 選択問い合わせ結果を再利用 (Reuse VM selection query results for)] オプションは、問い合わせビルダーの仮想環境変更の表示に影響しません。再利用オプションは、NetBackup がポリシーの今後の実行時に現在のバックアップリストを再利用する期間を決定します。

問い合わせビルダーの仮想環境の表示を更新するには、次の操作を実行します。

- 1 ローカルホストの Windows デスクトップで、[スタート]、[ファイル名を指定して実行]の順にクリックし、regedit と入力します。
- 2 念のために、現在のレジストリのバックアップを作成します ([ファイル]、[エクスポート])。
- 3 [HKEY_LOCAL_MACHINE]、[SOFTWARE]、[Veritas]、[NetBackup]、[CurrentVersion]、[Config]の順に移動して[BACKUP]というキーを作成します。
- 4 BACKUP の下に、xmlCacheLimit という名前の新しい DWORD を作成します。
- 5 この DWORD を必要な秒数に設定します。値が 15 であれば、クエリービルダーは 15 秒後に更新できます。
- 6 NetBackup 管理コンソールでポリシーエディタが開いている場合は閉じてから、再び開きます。

サポート外の vSphere VM の設定

高可用性 (HA) を実現する次の VMware 設定は、HA 設定で F5 ロードバランサ (または他の負荷分散ソフトウェア) の背後にシングルサインオンサーバーを備える vSphere 5.1 の仮想マシンバックアップではサポートされません。

サポートは重複排除ボリュームまたは ReFS ファイルシステムを伴う Win Server 2012 インストールの変更のサポート

次の機能は、重複排除ボリュームまたは ReFS 形式のファイルシステムを含む Windows Server 2012 のインストールではサポートされません。

- 個々のファイルとフォルダのリストア
- SQL、Exchange、SharePoint アプリケーションのリストア
- Exchange と SharePoint の個別リストア

Win2003 の vCenter に Windows Hotfix が必要

次のように、NetBackup Plug-in for vCenter に適用されます。

Windows 2003 で実行する vCenter システムでは、Windows Hotfix のインストールが必要なことがあります。Hotfix をインストールしないと、NetBackup vCenter プラグインにアクセスできず、「処理がキャンセルされました (Action Canceled)」というメッセージが表示されることがあります。

次の Microsoft 社のサポート記事から Hotfix をダウンロードできます。

<http://support.microsoft.com/kb/968730>

バックアップ以降に表示名を変更するとVMを元の場所にリストアできない

仮想マシンがバックアップされた後に仮想マシンの表示名が変わったら、仮想マシンの元の場所へのリストアは失敗します。

回避策として、別の場所に仮想マシンをリストアします。

NetBackup が VM の名前の大文字と小文字を区別する

VMware vSphere では、仮想マシン (VM) の表示名、リソースプール名、vApp 名の大文字と小文字を区別します。たとえば、vm1 は VM1 という名前の仮想マシンとは異なる仮想マシンです。バージョン 7.5 以前の NetBackup は、問い合わせでバックアップ用の仮想マシンを自動的に選択するときには大文字と小文字を区別しません。VM1 と vm1 は同じ仮想マシンであると見なされます。

バージョン 7.6 以降では、NetBackup は VM の表示名、リソースプール名、vApp 名の大文字と小文字を認識します。問い合わせによる自動選択を使うバックアップポリシーは大文字と小文字を区別するようになりました。同じことが、バックアップ、アーカイブ、リストアインターフェースの新しい仮想クライアントの検索機能にも当てはまります。vm1 は VM1 とは別の仮想マシンとして識別されます。

メモ: NetBackup 7.6 以降にアップグレードするときに、問い合わせで仮想マシンを識別するポリシーがバックアップ用仮想マシンの異なるセットを選択する場合があります。大文字と小文字を区別する新しい動作を反映するために、ポリシー問い合わせルールを編集する必要がある場合もあります。

オフホストバックアップは 7.6.0.3 でサポートされない

Hyper-V オフホストバックアップは NetBackup 7.6.0.3 でサポートされていません。

VMware 仮想マシンのインスタントリカバリの新しいサポート

NetBackup 7.6.0.1 以降では VMware 仮想マシンのインスタントリカバリで、BasicDisk、AdvancedDisk、メディアサーバー重複排除プール (MSDP)、PureDisk 重複排除プール (PDDO)、条件に合った他社製 OpenStorage デバイスのストレージユニット形式 (ディスクのみ) をサポートするようになりました。注意: スナップショットのみのバックアップはサポートされません。

NBD または NBDSSL の転送モードで仮想マシンをリストアすると遅いことがある

次の場合に NBD または NBDSSL の転送モードで仮想マシンをリストアすると遅いことがあります。

- 断片化がかなり進んでいるので仮想マシンに多くの小さいデータエクステンがある（ファイルシステムエクステンはブロックオフセットとサイズで定義した連続ストレージ領域）
- ブロックレベルの増分バックアップからリストアする場合に、増分バックアップを作成したらディスクの変更済みブロックの断片化がかなり進んだ

このような場合にリストアの速度を上げるには、NBD や NBDSSL ではなく hotadd 転送モードを使います。

Windows ダイナミックディスクを使用している VMware VM の場合、Windows リストアホストと hotadd トランスポートモードでは、増分バックアップからのリストアが失敗する

hotadd 転送モードによる Windows 仮想マシンのリストアは、以下の場合に失敗することがあります。

- ダイナミックディスクグループがある Windows 仮想マシンのバックアップが実行された。
- バックアップ後に、仮想マシンのディスクグループに別のダイナミックディスクが追加された。
- ダイナミックディスクを追加した後に、仮想マシンの増分バックアップが実行された。
- Windows リストアホストを hotadd トランスポートモードで使用して、増分バックアップから仮想マシンをリストアした。

詳細と回避策については、Symantec 社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH224707>

リストアされた仮想マシンが起動できない、またはファイルシステムにアクセスできない

次の場合、リストアされた仮想マシンが起動できない、またはファイルシステムにアクセスできない可能性があります。

- 仮想マシンのゲストオペレーティングシステムが Windows 8
- 仮想マシンが Block Level Incremental のバックアップイメージからリストアされている
- リストアが hotadd トランスポートモードを使用している

VDDK 5.5.x の VMware の問題により、リストアした仮想マシンの Windows NTFS マスターファイル表が破損している可能性があります。

回避策として、hotadd 以外のトランスポートモードで仮想マシンをリストアしてください。

[発行の有効化 (Enable Publishing)]カタログプロパティによって vApp テンプレートのリストアが妨げられます

vCloud Director 5.5 の問題によって、NetBackup の [テンプレートとして vApp をキャプチャする (Capture vApp as a template)] オプションを使ったとき vApp テンプレートのリストアが妨げられます。vCloud Director の [発行の有効化 (Enable Publishing)] オプションが vApp テンプレートを含むカタログ用に設定されると、リストアはステータスコード 1 で失敗します。(vCloud Director のユーザーインターフェースでは、[発行の有効化 (Enable Publishing)] は [外部発行 (External Publishing)] タブの [カタログプロパティ (Catalog Properties)] 下にあります。)

回避策として、次のことを実行します: リストアジョブがステータス 1 で終了したら、vCloud Director のインターフェースで vApp テンプレートを右クリックして、[カタログに追加 (Add to Catalog)] を選択します。このオプションは NetBackup の [テンプレートとして vApp をキャプチャする (Capture vApp as a template)] オプションと同じです。

ブート設定を変更すると VM の電源をオンにできないことがある

VM のデフォルトブート設定が変更されている場合は、復元した VM の電源を正しくオンにできない場合があります。詳細と回避策については、シマンテック社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/HOWTO95250>

vCenter プラグインが正しく機能するためのポートの選択

vCenter プラグインをインストールするとき、vCenter Server および vCenter プラグイン Web サーバーのポート番号を指定するように求められます。ほとんどの場合、デフォルトのポート (vCenter Server は 443、vCenter プラグイン Web サーバーは 9445) が利用可能で、プラグインが正しく機能できるようになります。別のサービスで必要となるポートを指定すると、プラグインは正しく機能しないことがあります。たとえば、セキュアシェル (SSH) ネットワークサービスのデフォルトポートは 22 です。プラグイン Web サーバーのポートに 22 を指定してユーザーがプラグイン仮想アプライアンスで SSH を有効にした場合、競合が発生します。その結果、プラグインが誤作動することがあります。

プラグインのインストール中に、デフォルトのポート番号を承諾するか、他のサービスで必要としない標準外のポートを選択します。

VMware Windows Server 2008 R2 VM のバックアップが状態コード 156 で失敗することがある

Microsoft ボリュームシャドウコピーサービス (VSS) のエラーが原因で、VMware Windows Server 2008 R2 VM のバックアップが状態コード 156 (snapshot error encountered) で失敗することがあります。install_path¥NetBackup¥logs¥bpfis ログには次のようなメッセージが含まれていることがあります。

```
12:08:50.920 [20787] <2> onlfi_vfms_logf: INF - VMware_freeze:  
FTL - VMware error received: An error occurred while quiescing the  
virtual machine. See the virtual machine's event log for details.
```

仮想マシンのイベントログには次のメッセージが含まれていることがあります。

```
The guest OS has reported an error during quiescing. The error code  
was: 5 The error message was: 'VssSyncStart' operation failed:  
Unspecified error (0x80004005)
```

この問題を修正し、正常なバックアップを作成するには、次の手順を実行します。

- 仮想マシンの **VMware Tools** を最新バージョンに更新します。
- **ESX** サーバーを最新バージョンに更新します。

この問題について詳しくは、次の **VMware** ナレッジベースの記事を参照してください。

http://kb.vmware.com/selfservice/microsites/search.do?language=en_US&cmd=displayKC&externalId=language=en_US&cmd=displayKC&externalId=2006849

VMware vSphere Web Client プラグインを使う仮想マシンのリカバリを監視画面から開始すると失敗する場合があります

正常なバックアップイベントを右クリックして **NetBackup vSphere Web Client** でリカバリ操作を開始すると、次のエラーが起きて操作に失敗する場合があります。

```
NetBackup master server <master server name> not found in the list  
of added master server.
```

. この問題は、**vSphere** プラグインの **[Monitoring]** ページのバックアップイベントに短い名前や **FQDN** (完全修飾ドメイン名) ではないマスターサーバー名が含まれる場合に起きます。

回避策:

- 1 手動で仮想マシンやイメージを選択して **[リカバリウィザード (Recovery Wizard)]** でリカバリ操作を開始します。
- 2 バックアップイベントを右クリックしてバックアップイメージをリカバリする場合は、既存のマスターサーバー名をリストから削除して短い名前でもマスターサーバー名を再度追加します。この変更は、**vSphere** プラグインの **[Add/Remove Master Server]** オプションを使って行ないます。

vCloud Director の操作上の注意事項

この項では、**NetBackup for VMware vCloud Director** の今回のリリースに関わる操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

vCloud バックアップイメージのリストアは vCenter プラグインでサポートされない

vCloud バックアップイメージのリストアは vCenter プラグインでサポートされていません。このタイプのリストアは、バックアップ、アーカイブ、リストアのインターフェースの使用によってのみサポートされています。

vCloud の企業ネットワークはリストア時に[ネットワーク接続 (Network Connections)]画面に表示されない

vCloud の企業ネットワークはリストア時に[ネットワーク接続 (Network Connections)]画面には表示されません。vSphere のネットワークのみが表示されます。

インスタントリカバリは vCloud ではなく vSphere に vCloud 仮想マシンをリストアする

インスタントリカバリでは、vCloud に vCloud 仮想マシンをリストアすることはできません。仮想マシンは vSphere にリストアされます。vCloud の[コピー (Copy)]オプションを使うと、リストアされた仮想マシンを vCloud にコピーすることができます。[インポート (Import)]オプションは、NetBackup データストアから実行している仮想マシンでは働かないことに注意してください。

バックアップジョブは、[ポリシーごとの複数の組織 (Multiple organizations per policy)]が無効で、VIP クエリー結果に複数の組織の VM が含まれていると失敗する

[ポリシーごとの複数の組織 (Multiple organizations per policy)]が無効で、VIP クエリーの結果に複数の組織からの仮想マシンが含まれていると、問題が発生します。ポリシーの検証は成功しますが、バックアップジョブは失敗します。

NetBackup for Hyper-V の操作上の注意事項

NetBackup for Hyper-V では、さまざまなバージョンの Windows サーバー上で動作する仮想マシンのスナップショットベースのバックアップを提供します。このトピックでは、NetBackup 7.6.1.2 の NetBackup for Hyper-V に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

[VM バックアップからのファイルリカバリを有効にする (Enable file recovery from VM backup)]オプションにおける.vhdまたは.vhdxの名前の文字制限

[VM バックアップからのファイルリカバリを有効にする (Enable file recovery from VM backup)]オプションを含む Hyper-V ポリシーの場合は、vhd 名や vhdx 名に非 ASCII 文字を使うことはできません。非 ASCII 文字には、たとえば日本語や漢字 (マルチバイ

ト) があります。vhd または vhdx 名に非 ASCII 文字が含まれていると、バックアップジョブは完了しますが、VM のファイルを個別にバックアップからリストアすることはできません。

代わりに、VM 全体をリストアできます。

.vhdx ファイルである VM では VM のバックアップからファイルをリカバリできない

[VM バックアップからのファイルリカバリを有効にする (Enable file recovery from VM backup)] のポリシーオプションは .vhdx ファイルである仮想マシンにはサポートされません。仮想ディスクが .vhdx 形式の場合、仮想マシン全体はリストアできますが、個々のファイルはリストアできません。

個々のファイルのリストアを試みても、リストアは失敗します。NetBackup 7.6.1.2 マスターサーバーの場合、アクティビティモニターの [ジョブの詳細] ダイアログボックスには次のメッセージが表示されます。

```
This VM contains VHDX virtual disk(s). Single file restore will not be possible for such disks. You will be able to perform a full restore.
```

NetBackup 7.6.1.2 以前のマスターサーバーの場合、[ジョブの詳細] ダイアログボックスには次のようなメッセージが表示されます。

```
Warning bpbrm(pid=9128) from client <hostname>: WRN - VxUL id = 34.
```

解決済みの操作上の注意事項

この章では以下の項目について説明しています。

- [解決済みの操作上の注意事項について](#)
- [NetBackup の一般的な解決済みの操作上の注意事項](#)

解決済みの操作上の注意事項について

解決された操作上の注意事項は『NetBackup リリースノート』から削除される操作上の注意事項を表します。操作上の注意事項の解決時に、解決されたリリースバージョンおよび解決法の説明が「解決済みの操作上の注意事項」セクションで文書化されます。解決された操作上の注意事項は少なくとも1つの単一ドットリリースを通じて、『NetBackup リリースノート』で文書化されます。

操作上の注意事項は複数の方法で解決されます。注意事項は大抵の場合、バグ修正または NetBackup に組み込まれる新機能により解決します。ただし、操作上の注意事項は他のマニュアルまたは回避策で解決される場合もあります。いずれの場合も、個々の解決済み操作上の注意事項は解決されたリリースバージョンおよび解決法の説明を含みます。

NetBackup の一般的な解決済みの操作上の注意事項

このトピックでは、前述の NetBackup および管理に関連する一般的な操作上の注意事項および既知の問題について、その一部の解決方法を示します。

バージョン 7.6.1.2 の NetBackup に関連する操作上の注意事項および既知の問題のうち、未解決で一般的な一部のものについての詳しい参照先:

p.30 の「[NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項](#)」を参照してください。

表 4-1 解決済みの NetBackup サポート上の注意事項

元のサポート上の注意事項	問題が解決された NetBackup のバージョン	解決方法
<p>FlashBackup-Windows バックアップは、最初のバックアップ対象がマウントポイントの場合にバックアップ対象をスキップする場合があります。この問題は、NetBackup 7.6.1.1 のすべてのサポート対象バージョンで FlashBackup-Windows のポリシーに影響します。この問題は、マルチストリームが有効ではなかった([複数のデータストリームを許可する (Allow multiple data streams)]ポリシー属性チェックボックスにチェックマークが付いていない)ポリシーに影響します。詳しくは、Symantec 社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。</p> <p>http://www.symantec.com/docs/TECH230029</p>	7.6.1.2	NetBackup 7.6.1.2 では、この問題は解決されました。
<p>[リモート (インポート済み) の有効期限 (Remote (Imported) Expiration Date)]を使ってインポート済みの複製からテープ複製を作成するストレージライフサイクルポリシー AIR の設定はこれらの複製に正しくない有効期限日を割り当てます。詳しくは、Symantec 社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。</p> <p>http://www.symantec.com/docs/TECH230030</p>	7.6.1.2	NetBackup 7.6.1.2 では、この問題は解決されました。
<p>単一の VNX/Celerra ファイルシステムの NDMP リストアは、複数の VNX/Celerra ファイルシステムが RD NDMP ポリシーを使ってバックアップを作成すると失敗します。詳しくは、Symantec 社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。</p> <p>http://www.symantec.com/docs/TECH230279</p>	7.6.1.2	NetBackup 7.6.1.2 では、この問題は解決されました。
<p>NetBackup 7.6.1 と 7.6.1.1 でジョブを中断して再開した後に、そのポリシーとクライアントの今後の定時バックアップが実行されません。詳しくは、Symantec 社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。</p> <p>http://www.symantec.com/docs/TECH230311</p>	7.6.1.2	NetBackup 7.6.1.2 では、この問題は解決されました。

元のサポート上の注意事項	問題が解決された NetBackup のバージョン	解決方法
<p>MacOS X の NetBackup 7.6.1 クライアントや 7.6.1.1 クライアントは、拡張属性とリソース fork をリストアしません。詳しくは、Symantec 社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。</p> <p>http://www.symantec.com/docs/TECH230376</p>	<p>7.6.1.2</p>	<p>NetBackup 7.6.1.2 では、この問題は解決されました。</p>

NetBackup のリリース内容

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のリリース内容について](#)

NetBackup のリリース内容について

NetBackup の各リリースには、NetBackup の旧バージョンに関わる複数の既知の問題に対する修正が組み込まれます。これらの修正のいくつかは Titan または [Salesforce.com \(SFDC\)](#) のケースの形で文書化された顧客固有の問題に関連しています。各リリースに組み込まれた顧客関連の修正の一部は、[Emergency Engineering Binaries \(EEB\)](#) としても使用できるようになりました。

NetBackup 7.6.1.2 で修正された既知の問題を示す [Etrack](#) および [EEB](#) のリストは、[NetBackup Hot Fix](#) と [EEB Release Auditor](#) ウィジェットを使って、[Symantec Operations Readiness Tools \(SORT\) Web サイト](#) および、『[NetBackup Emergency Engineering Binary ガイド](#)』にあります。

p.74 の「[Symantec Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup ユーザーの SORT について

この付録では以下の項目について説明しています。

- [Symantec Operations Readiness Tools](#) について
- [SORT の新規インストールのための推奨手順](#)
- [SORT のアップグレードのための推奨手順](#)

Symantec Operations Readiness Tools について

Symantec Operations Readiness Tools (SORT) は、シマンテックエンタープライズ製品をサポートするスタンドアロンと Web ベースの強力なツールセットです。NetBackup では、SORT によって、複数の UNIX/Linux または Windows 環境にまたがってホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。このデータは、システムで NetBackup の最初のインストールまたはアップグレードを行う準備ができているかどうかを評価するのに役立ちます。

次の Web ページから SORT にアクセスします。

<https://sort.symantec.com/netbackup>

SORT ページに移動すると、次のようにより多くの情報を利用可能です。

- インストールとアップグレードのチェックリスト
このツールを使うと、システムで NetBackup のインストールまたはアップグレードを行う準備ができているかどうかを確認するためのチェックリストを作成できます。このレポートには、指定した情報に固有のソフトウェアとハードウェアの互換性の情報がすべて含まれています。さらに、製品のインストールまたはアップグレードに関する手順とその他の参照先へのリンクも含まれています。
- Hotfix と EEB Release Auditor

このツールを使うと、インストールする予定のリリースに必要な Hotfix が含まれているかどうかを調べることができます。

- カスタムレポート
このツールを使うと、システムとシマンテックエンタープライズ製品に関する推奨事項を取得できます。
- NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定 (NetBackup Future Platform and Feature Plans)
このツールを使用すると、シマンテック社が新しい機能や改善された機能と置き換える項目に関する情報を取得できます。さらに、シマンテック社が置き換えを行わずに廃止する項目についても情報を提供します。これらの項目のいくつかには NetBackup の特定の機能、他社製品の統合、シマンテック製品の統合、アプリケーション、データベースおよび OS のプラットフォームが含まれます。

SORT ツールのヘルプが利用可能です。SORT ホームページの右上隅にある[ヘルプ (Help)]をクリックします。次のオプションがあります。

- 実際の本のようにページをめくってヘルプの内容を閲覧する
- インデックスでトピックを探す
- 検索オプションを使ってヘルプを検索する

SORT の新規インストールのための推奨手順

新規の NetBackup ユーザーは、SORT の最初の導入時にリストされる 3 つの手順を実行することをお勧めします。このツールには他にも多くの機能が備わっていますが、これらの手順は SORT の概要を知る上で役立ちます。さらに、これらの手順を実行することで、その他の SORT 機能に関する有用で基本的な知識が備わります。

表 B-1

手順	詳細
SORT Web ページに SymAccount プロファイルを作成します。	p.76 の「 SORT ページに SymAccount プロファイルを作成する方法 」を参照してください。
汎用インストールレポートを作成します。	p.76 の「 汎用インストールチェックリストを作成する方法 」を参照してください。
システム固有のインストールレポートを作成します。	p.77 の「 システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合) 」を参照してください。 p.78 の「 システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合) 」を参照してください。

SORT ページに SymAccount プロファイルを作成する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:

<https://sort.symantec.com/netbackup>

- 2 右上の角で、[登録 (Register)]をクリックします。
- 3 要求された次のログインおよび連絡先情報を入力します:

電子メールアドレス (Email address) 電子メールアドレスを入力し、検証してください

パスワード (Password) パスワードを入力し、検証してください

名 (First name) 名を入力してください

姓 (Last name) 姓を入力してください

会社名 (Company name) 会社名を入力してください

国 (Country) 国を入力してください

優先言語 (Preferred language) 優先言語を選択してください

CAPTCHA テキスト (CAPTCHA text) 表示される CAPTCHA テキストを入力してください。必要に応じて、イメージを更新してください。

- 4 [送信 (Submit)]をクリックします。
- 5 ログイン情報の受信時に SORT にログインしてカスタマイズした情報のアップロードを開始できます。

汎用インストールチェックリストを作成する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:

<https://sort.symantec.com/netbackup>

- 2 [インストールとアップグレードのチェックリスト (Installation and Upgrade Checklist)] ウィジェットを見つけます。

3 要求された情報を指定します

製品 (Product)	ドロップダウンメニューから適切な製品を選択してください。 NetBackup の場合は NetBackup Enterprise Server または NetBackup Server を選択してください。
インストールするまたはアップグレード後の製品バージョン (Product version you are installing or upgraded to)	NetBackup の適切なバージョンを選択してください。最新バージョンは常にリストの一番上に示されます。
プラットフォーム (Platform)	生成するチェックリストに対応するオペレーティングシステムを選択してください。
プロセッサ (Processor)	チェックリストに対して適切なプロセッサの種類を選択してください。
アップグレード前の製品バージョン (任意) (Product version you are upgrading from (optional))	新規インストールの場合は、何も選択しないでください。アップグレードの場合は、現在インストールされている NetBackup のバージョンを選択できます。

4 [チェックリストの生成 (Generate Checklist)]をクリックします。

- 5 選択内容に対応するチェックリストが作成されます。この画面で選択内容を変更できます。[チェックリストの生成 (Generate Checklist)]をクリックすると、新しいチェックリストが作成されます。

結果の情報は PDF として保存できます。**NetBackup** では多数のオプションを利用可能で、それらの多くは生成されたチェックリストに示されます。各セクションを十分に確認して、環境に適用するかどうかを判断してください。

システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合)

- 1 SORT の Web サイトに移動します。
<https://sort.symantec.com/>
- 2 [SORT]>[NetBackup の SORT (SORT for NetBackup)]を選択します。
- 3 [データコレクタを使ったカスタムレポート (Custom Reports Using Data Collectors)]で、[データコレクタ (Data Collector)]タブを選択します。

- 4 [グラフィカルユーザーインターフェース (Graphical User Interface)]のラジオボタンを選択して、プラットフォームに対して適切なデータコレクタをダウンロードします。
データコレクタは OS 固有です。Windows コンピュータに関する情報を収集するには、Windows データコレクタが必要です。UNIX コンピュータに関する情報を収集するには、UNIX データコレクタが必要です。
- 5 ダウンロードが終わったら、データコレクタを起動します。
- 6 [ようこそ (Welcome)]画面の[製品ファミリー (product family)]セクションで NetBackup を選択して、[次へ (Next)]をクリックします。
- 7 [システムの選択 (System Selection)]画面で、分析するすべてのコンピュータを追加します。[参照 (Browse)]をクリックすると、分析に追加可能なコンピュータのリストを確認できます。ツールは管理者または root アカウントで開始することをお勧めします。
- 8 すべてのシステムを選択したら、[システム名 (System names)]セクションを確認して[次へ (Next)]をクリックします。
- 9 [検証オプション (Validation Options)]画面の[検証オプション (Validation options)]下で、アップグレード後のバージョンを選択します。
- 10 [次へ (Next)]をクリックして続行します。
- 11 ユーティリティによって要求されたチェックが実行され、結果が表示されます。レポートをマイ SORT にアップロードできます。また結果を印刷したり保存できます。分析を一元管理しやすくするために、結果はマイ SORT Web サイトにアップロードすることをお勧めします。[アップロード (Upload)]をクリックして、マイ SORT のログイン情報を入力すると、データがマイ SORT にアップロードされます。
- 12 終了したら、[完了 (Finish)]をクリックしてユーティリティを閉じます。

システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合)

- 1 SORT の Web サイトに移動します。
<https://sort.symantec.com/>
- 2 [SORT]>[NetBackup の SORT (SORT for NetBackup)]を選択します。
- 3 ダウンロード済みのユーティリティを含むディレクトリに変更します。
- 4 [データコレクタを使ったカスタムレポート (Custom Reports Using Data Collectors)]で、[データコレクタ (Data Collector)]タブを選択します。
- 5 プラットフォームに対して適切なデータコレクタをダウンロードします。
データコレクタは OS 固有です。Windows コンピュータに関する情報を収集するには、Windows データコレクタが必要です。UNIX コンピュータに関する情報を収集するには、UNIX データコレクタが必要です。

- 6 `./sortdc` を実行します。

ユーティリティによって、最新バージョンのユーティリティがインストールされていることを確認するためのチェックが実行されます。さらに、ユーティリティによって、最新のデータが含まれているかどうかチェックされます。この処理の後、ユーティリティによって、このセッションのログファイルの場所がリストされます。
- 7 要求されたら、**Enter** キーを押して続行します。
- 8 メインメニューで[**NetBackup ファミリー (NetBackup Family)**]を選択します。
- 9 [何をしますか? (What task do you want to accomplish?)]というプロンプトが表示されたら、[インストールレポートのアップグレード (Installation/Upgrade report)]を選択します。

カンマで項目を区切ることで、複数のオプションを選択できます。
- 10 レポートに含めるシステムを指定します (複数可)。

指定したシステムで以前にレポートを実行していた場合は、そのレポートを再び実行するようプロンプトが表示されます。[はい (Yes)]を選択すると、レポートが再実行されます。

ユーティリティによって、セッションのログファイルの場所が再びリストされます。

ユーティリティの進捗状況が画面に表示されます。
- 11 インストールまたはレポートをアップグレードする製品に関するプロンプトが表示されたら、**NetBackup** を指定します。
- 12 インストールする **NetBackup** のバージョンに対応する数字を入力します。

ユーティリティによって、セッションのログファイルの場所が再びリストされます。

ユーティリティの進捗状況が画面に表示されます。
- 13 ユーティリティによって、レポートをオンラインで確認する場合には **SORT Web** サイトにアップロードするよう促すプロンプトが表示されます。オンラインレポートを利用すると、システム上のテキストベースのレポートよりも詳細な情報を入手できます。
- 14 タスクが完了したら、ユーティリティを終了できます。オプションでツールに関するフィードバックを提供できます。シマンテック社はフィードバックを基にツールの改良を実施しています。

SORT のアップグレードのための推奨手順

現在の **NetBackup** ユーザーは、**SORT** の最初の導入時にリストされる 3 つの手順を実行することをお勧めします。このツールには他にも多くの機能が備わっていますが、これらの手順はすでに **NetBackup** を使っているユーザーにとって **SORT** の概要を知る上で役立ちます。さらに、これらの手順を実行することで、その他の **SORT** 機能に関する有用で基本的な知識が備わります。

表 B-2

手順	詳細
SORT Web ページに SymAccount プロファイルを作成します。	p.76 の「SORT ページに SymAccount プロファイルを作成する方法」を参照してください。
システム固有のアップグレードレポートを作成します。	p.77 の「システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合)」を参照してください。 p.78 の「システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合)」を参照してください。
今後のプラットフォームと機能の予定を確認します。	p.80 の「今後のプラットフォームの変更と機能の予定を確認する方法」を参照してください。
Hotfix と EEB Release Auditor の情報を確認します。	p.80 の「Hotfix と EEB の情報を確認する方法」を参照してください。

今後のプラットフォームの変更と機能の予定を確認する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.symantec.com/netbackup>
- 2 [NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定 (NetBackup Future Platform and Feature Plans)] ウィジェットを見つけます。
- 3 [情報の表示 (Display Information)] をクリックします。
- 4 表示される情報を確認します
- 5 任意 - サインインによる通知の作成 - [サインインによる通知の作成 (Sign in and create notification)] をクリックします。

Hotfix と EEB の情報を確認する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.symantec.com/netbackup>
- 2 [NetBackup Hotfix と EEB Release Auditor (NetBackup Hot Fix and EEB Release Auditor)] ウィジェットを見つけます。
- 3 Hotfix または緊急エンジニアリングバイナリ (EEB) の情報を入力します。

- 4 [検索 (Search)]をクリックします。
- 5 新しいページに、以下の列が含まれた表が表示されます。

EEB 識別子の Hotfix (Hot fix of EEB Identifier)	前の画面で入力した Hotfix または EEB 番号が表示されます。
説明 (Description)	Hotfix または EEB に関連付けられた問題の説明が表示されます。
解決済みのバージョン (Resolved in Versions)	この問題が解決された NetBackup のバージョンが示されます。

NetBackup のインストール要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新](#)

NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新

NetBackup のサーバーおよびクライアントのインストールは、NetBackup の互換性リストにリストされるオペレーティングシステム (OS) の定義済みセットでのみサポートされます。ほとんどの OS ベンダーが、製品のパッチ、更新、およびサービスパック (SP) を提供しています。プラットフォームのテスト時には OS の最新の SP または更新レベルでテストすることが、NetBackup のクオリティエンジニアリングのベストプラクティスです。したがって、NetBackup はすべてのベンダー GA 更新 (n.1、n.2 など) または SPS (SP1、SP2 など)。ただし、既知の互換性の問題が特定の SP または更新された OS レベルに存在する場合、この情報は互換性リストで特定されます。このような互換性の問題が見られない場合、Symantec 社は、サーバーとクライアントに最新の OS 更新をインストールしてから NetBackup をインストールまたはアップグレードすることをお勧めします。

互換性リストには、最新のメジャーリリースラインでの最小の NetBackup バージョンをサポートするために必要な最小の OS レベルに関する情報が含まれます。場合によっては、NetBackup の新しいリリースが特定のベンダーによる OS 更新またはパッチを必要とすることがあります。表 C-1 に、NetBackup 7.6.1.2 で必要な OS 更新とパッチを示します。ただし、この情報はリリース間で変わる場合があります。NetBackup 7.6.1.2 およびその他の NetBackup リリースに関する最新の必要な OS パッチ情報は、Symantec Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトで確認できます。

p.92 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

p.74 の「[Symantec Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

メモ: OS ベンダーは、表 C-1 にリストされているパッチよりも優先するまたはそれに置き換わる最新の更新またはパッチをリリースしている可能性があります。この表と SORT にリストされている OS パッチは、NetBackup のインストールと実行に必要な最小のパッチレベルであると見なしてください。表 C-1 にリストされている OS 更新、パッチ、パッチバンドルに優先するまたは置き換わるものは、特に指定していない限りサポートされます。個々の OS ベンダーのサポート Web サイトを参照して最新のパッチ情報を入手することをお勧めします。

メモ: 表 C-1 にリストされている NetBackup クライアント向けの必須パッチも、クライアントが適切に動作するためにマスターサーバーとメディアサーバーにインストールしてください。

表 C-1 NetBackup 7.6.1.2 に必要なオペレーティングシステムパッチと更新

オペレーティングシステムの種類とバージョン	NetBackup の役割	パッチ	注意事項
AIX 6.1	マスター、メディア、クライアント	AIX 6.1 TL2 SP5 (6100-05-02-1034)	NetBackup では、AIX 6.1 TL5 SP2 (6100-05-02-1034) Maintenance Pack が最低限必要です。(より高いパッチレベルも機能します。) oslevel -s コマンドを使用して、インストールした Maintenance Pack レベルを確認できます。
	マスター、メディア、クライアント	AIX ランタイムライブラリ 9.0.0.3 以降	ランタイムライブラリは 9.0.0.3 以降である必要があります。バージョン 9.0.0.3 に変更した後に再起動する必要がある場合があります。
	マスター、メディア、クライアント	AIX 6.1 TL7 (6100-07)	このパッチは NetBackup-Java 管理コンソールが正しく機能するために必要です。 https://www-304.ibm.com/support/docview.wss?uid=isg1fixinfo134913
AIX 7.1	マスター、メディア、クライアント	AIX 7.1 TL1 SP2 (7100-01-02-1150)	このパッチは NetBackup-Java 管理コンソールが正しく機能するために必要です。 https://www-304.ibm.com/support/docview.wss?uid=isg1fixinfo134913

オペレーティングシステムの種類とバージョン	NetBackup の役割	パッチ	注意事項
HP-UX	マスター、メディア、クライアント	COMPLIBS.LIBM-PS32	HP-UX プラットフォーム上に AT をインストールする場合、このパッチが必要になります。
HP-UX IA-64	マスター、メディア、クライアント	Networking.NET-RUN: /usr/lib/libip6.sl	
	マスター、メディア、クライアント	Networking.NET-RUN-64: /usr/lib/pa20_64/libip6.1	
	マスター、メディア、クライアント	Networking.NET-RUN-64: /usr/lib/pa20_64/libip6.sl	
	マスター、メディア、クライアント	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux32/libip6.so	
	マスター、メディア、クライアント	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux32/libip6.so.1	
	マスター、メディア、クライアント	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux64/libip6.so	
	マスター、メディア、クライアント	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux64/libip6.so.1	
	マスター、メディア、クライアント	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/libip6.1	
HP-UX 11.31	メディア (Media)	QPK1131 (B.11.31.1003.347a) パッチバンドル	このパッチバンドルは NetBackup メディアサーバーのサポートに必要です。これは HP-UX March 2010 パッチバンドルです。
Red Hat Enterprise Linux 6	マスター、メディア、クライアント	glibc-2.12-1.107 またはそれ以降	

オペレーティングシステムの種類とバージョン	NetBackup の役割	パッチ	注意事項
Solaris 10 SPARC 64 ビット版	マスター、メディア、クライアント	推奨パッチセット - 2011 年 6 月以降	<p>Symantec 社は、2011 年 6 月 (以降) のパッチセットを Oracle のサポート Web サイトからダウンロードすることをお勧めします。</p> <p>https://support.oracle.com</p> <p>このパッチセットには、次の最小限の推奨パッチが含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 118777-17 (SunOS 5.10: Sun GigaSwift Ethernet 1.0 ドライバパッチ) ■ 139555-08 (C++ ライブラリの更新を含むカーネルパッチ) ■ 142394-01 (ICMP (Internet Control Message Protocol) パッチ) ■ 143513-02 (DLADM (Data Link Admin command for Solaris) パッチ) ■ 141562-02 (ARP (Address Resolution Protocol) パッチ) <p>次のパッチは、NXGE カード搭載の Solaris 10 SPARC 用です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 142909-17 (SunOS 5.10: nxge パッチ) ■ 143897-03 (Distributed Link Software パッチ) ■ 143135-03 (集約パッチ) ■ 119963-21 (変更要求 ID - 6815915)

オペレーティングシステムの種類とバージョン	NetBackup の役割	パッチ	注意事項
Solaris 10 x86-64	マスター、メディア、クライアント	推奨パッチセット - 2011 年 12 月 28 日以降	<p>Symantec社は、2011 年 12 月 28 日 (以降) のパッチセットを Oracle のサポート Web サイトからダウンロードすることをお勧めします。</p> <p>https://support.oracle.com</p> <p>このパッチセットには、次の最小限の推奨パッチが含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 118778-15 (SunOS 5.10_x86: Sun GigaSwift Ethernet 1.0 ドライバパッチ) ■ 139556-08 (C++ ライブラリの更新を含むカーネルパッチ) ■ 142395-01 (SunOS 5.10_x86: ICMP パッチ) ■ 143514-02 (SunOS 5.10_x86: Data Link Admin command for Solaris パッチ) ■ 147259-02 (SunOS 5.10_x86: 集約パッチ) ■ 142910-17 (NXGE 修正を含めるための SunOS 5.10_x86 カーネルパッチ) ■ 143136-03 (SunOS 5.10_x86: 集約パッチ) ■ 119964-21 (変更要求 ID - 6815915)
Windows XP x86-32	クライアント	KB936357	Microsoft マイクロコード信頼性更新。
Windows XP x86 (64 ビット版)	クライアント	KB928646	PBX による接続試行のハングアップの Hotfix。
Windows Vista x86 (32 ビット版)	クライアント	KB936357	Microsoft マイクロコード信頼性更新。
	クライアント	KB952696	暗号化されたファイルをバックアップするために必要な更新を含んでいます。
Windows Vista x86-64	クライアント	KB936357	Microsoft マイクロコード信頼性更新。

オペレーティングシステムの種類とバージョン	NetBackup の役割	パッチ	注意事項
	クライアント	KB952696	暗号化されたファイルをバックアップするために必要な更新を含んでいます。
Windows Server 2003 x86-32 (SP1 & SP2)	クライアント	KB913648	ボリュームシャドークピーを実行するために必要な更新を含んでいます。
	クライアント	KB936357	Microsoft マイクロコード信頼性更新。
Windows Server 2003 x86-64 (SP1 & SP2)	メディア (Media)	KB883646	Microsoft Storport の Hotfix。
	クライアント	KB913648	ボリュームシャドークピーを実行するために必要な更新を含んでいます。
	マスター、メディア、クライアント	KB928646	PBX による接続試行のハングアップの Hotfix。
	マスター、メディア、クライアント	KB936357	Microsoft マイクロコード信頼性更新。
Windows Server 2003 x86 (64 ビット版) (SP2)	マスター、メディア	KB971383	TCP/IP プロトコルドライバは切断のイベントをランダムにトリガします。
Windows Server 2008 x86-32	クライアント	KB952696	暗号化されたファイルをバックアップするために必要な更新を含んでいます。
Windows Server 2008 x86-64	クライアント	KB952696	暗号化されたファイルをバックアップするために必要な更新を含んでいます。
Windows Server 2008 (SP2)	マスター、メディア、クライアント	KB979612	TCP ループバック遅延と UDP 遅延を改善するホットフィックス。
Windows Server 2008 R2	マスター、メディア、クライアント	KB2265716	コンピュータがランダムに応答停止する場合のホットフィックス。 このパッチが Windows Server 2008 R2 SP1 に含まれていることに注意してください。

オペレーティングシステムの種類とバージョン	NetBackup の役割	パッチ	注意事項
	マスター、メディア、クライアント	KB982383	ディスク I/O 負荷が大きい状態で I/O パフォーマンスが低下する場合のホットフィックス。 このパッチが Windows Server 2008 R2 SP1 に含まれていることに注意してください。
	マスター、メディア、クライアント	KB983544	レジストリ/ハイブファイルの「修正日時」ファイル属性の更新。 このパッチが Windows Server 2008 R2 SP1 に含まれていることに注意してください。
	マスター、メディア、クライアント	KB979612	TCP ループバック遅延と UDP 遅延を改善するホットフィックス。 このパッチが Windows Server 2008 R2 SP1 に含まれていることに注意してください。

NetBackup の互換性の要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のリリース形式とバージョン番号について](#)
- [NetBackup のバージョン間の互換性について](#)
- [NetBackup の互換性リストと情報について](#)
- [NetBackup の End-of-Life のお知らせについて](#)

NetBackup のリリース形式とバージョン番号について

シマンテック社は、さまざまなレベルで NetBackup のリリースを提供することでお客様のニーズに対応する、というポリシーを順守しています。このトピックでは、各種のリリース形式と、それぞれの形式に関連付けられるバージョン番号付けスキームを定義します。

ソフトウェアおよびアプライアンス製品の NetBackup ファミリーは次のリリース形式とバージョン番号付けスキームを使います。

- メジャーリリースとは、リリースの最初になるものです。このリリース形式には、新機能、拡張機能、プラットフォームのサポート、最新の製品マニュアル一式が含まれます。
- マイナーリリースとはメジャーリリースに続く単一ドットのリリースで、たとえば 2.6 または 7.6 です。このリリース形式には、メジャーリリースと同じ要件の多くが含まれます。より小規模な新機能と拡張機能のセット、新しいプラットフォームのサポート、最新の製品マニュアル一式が含まれます。
- ソフトウェアのリリース更新とは、2.6.1 または 7.6.1 のような二重ドットのリリースです。このリリース形式には、多くの製品修正プログラムとともに、いくつかの新機能と拡張機能が含まれることがあります。新機能や拡張機能に適用されるマニュアルのみが更新され、再発行されます。
- メンテナンスリリースとは、2.6.0.2 または 7.6.0.2 のような三重ドットのリリースです。このリリース形式は主に、メジャーリリース、マイナーリリース、ソフトウェア更新リリースの問題に対処するために開発されたいくつかの修正プログラムで構成されます。また、

新機能、機能拡張、新しいプラットフォームのサポートが若干含まれることもあります。このリリース形式で提供されるマニュアルは **Readme** のテキストファイルと『**NetBackup** リリースノート』の新しいバージョンのみです。これらのファイルは両方とも **Symantec** サポート **Web** サイトからオンライン経由のみで入手できます。

NetBackup のバージョン間の互換性について

メモ: このトピックの説明はシマンテック社の標準の EOL (End of Life) ポリシーや EOSL (End of Support Life) ポリシーより優先されるものではありません。**NetBackup** のバージョンが EOSL (サポート終了) に達した場合、その製品バージョンのリリースはすべて、いかなる構成においてもサポートされなくなります。

シマンテック社は **NetBackup** の EOSL 情報をオンラインで確認することをお勧めします。

<http://www.symantec.com/docs/TECH74757>

マスターサーバー、メディアサーバー、およびクライアントの間で、バージョンが異なる **NetBackup** を実行可能です。この旧バージョンのサポートによって、**NetBackup** サーバーを 1 つずつアップグレードして、全体的なシステムパフォーマンスに与える影響を最小限に抑えることができます。

メジャーバージョン間の互換性のために、**NetBackup** の最新の利用可能なリリースは、1 つ前までのメジャーバージョンの **NetBackup** のリリースを実行するメディアサーバーやクライアントと互換性があります。ただし、この互換性は、1 つ前のメジャーバージョンが EOSL に達すると、あらゆる構成においてサポートされなくなります。

NetBackup 環境内のマスターサーバーのバージョンレベルは、同じ環境内のメディアサーバーやクライアントのバージョンレベルと同等以上である必要があります。ただし、**NetBackup** は、クライアントおよびメディアサーバーがマスターサーバーとは異なる三重ドットリリースを実行する環境に柔軟に対応します。たとえば、マスターサーバーで稼働中のバージョンが **7.6.0.2** である環境の、メディアサーバーまたはクライアントのバージョンを **7.6. GA** にアップグレードすることが可能です。シマンテック社は、**NetBackup** の全体の環境を最新のメンテナンス (三重ドット) リリースで最新に保つことをお勧めします。

p.89 の「**NetBackup** のリリース形式とバージョン番号について」を参照してください。

NetBackup では、メディアサーバーやクライアントが、親サーバーのバージョンより上のマイナーリリースバージョンやソフトウェアのリリース更新バージョンを実行するシナリオをサポートしません。たとえば、

- マスターサーバーがバージョン **7.6** の場合、メディアサーバーとクライアントは **7.6** より大きい単一ドットのバージョンレベル (**7.7** など) にはなりません。
- マスターサーバーがバージョン **7.6** の場合、メディアサーバーとクライアントは **7.6** より大きい二重ドットのバージョンレベル (**7.6.1** など) にはなりません。

- マスターサーバーがバージョン 7.6.1 の場合、メディアサーバーとクライアントは 7.6.1 より大きい二重ドットのバージョンレベルにはなりません。

表 D-1 に、現在の NetBackup の製品ラインでサポートされるさまざまな互換方式を示します。

表 D-1 NetBackup 製品ラインのリリース互換性

NetBackup マスターサーバー	NetBackup メディアサーバー	NetBackup クライアント
7.6.1.x	7.6.1.x	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x、7.6、7.6.0.x、7.6.1、7.6.1.x
7.6.1.x	7.6.1	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x、7.6、7.6.0.x、7.6.1、7.6.1.x
7.6.1.x	7.6.0.x	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x、7.6、7.6.0.x
7.6.1.x	7.6	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x、7.6、7.6.0.x
7.6.1.x	7.5.0.x	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x
7.6.1.x	7.5	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x
7.6.1.x	7.1.0.x	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x
7.6.1.x	7.1	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x
7.6.1.x	7.0.1	7.0、7.0.1
7.6.1.x	7.0	7.0
7.6	7.6.0.x	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x、7.6、7.6.0.x
7.6	7.6	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x、7.6、7.6.0.x
7.6	7.5.0.x	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x
7.6	7.5	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x
7.6	7.1.0.x	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x
7.6	7.1	7.0、7.0.1、7.1、7.1.0.x
7.6	7.0.1	7.0、7.0.1
7.6	7.0	7.0

メモ: NetBackup 6.x 製品ラインのサポートは、2012 年 10 月に終了しました。

p.94 の「[NetBackup の End-of-Life のお知らせについて](#)」を参照してください。

その他の NetBackup の混在バージョンの互換性に関する注意事項

次のリストには、考慮する必要がある、互換性に関する追加の詳細情報が示されています。

- NetBackup カタログはマスターサーバー上に存在します。したがって、マスターサーバーはカタログバックアップのクライアントであると見なされます。NetBackup 構成にメディアサーバーが含まれている場合は、マスターサーバーと同じ NetBackup バージョンを使ってカタログバックアップを実行する必要があります。
- 個々のシステム上のすべての NetBackup コンポーネント (サーバー、クライアントおよびコンソール) は、同じバージョンである必要があります。
- 古いバージョンの NetBackup で作成されたバックアップイメージは、新しいバージョンを使用してリカバリできます。

NetBackup の互換性について詳しくは、シマンテック社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH59978>

NetBackup の互換性リストと情報について

『NetBackup リリースノート』のドキュメントには、NetBackup のバージョン間で実施された大量の互換性の変更に関する記述が含まれています。ただし、プラットフォーム、周辺機器、ドライブ、ライブラリの最新の互換性情報は、NetBackup の Symantec Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトにあります。

p.74 の「[Symantec Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup では、SORT によって、インストールとアップグレードのチェックリストのレポートと、既存の複数の環境にわたりホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。さらに、ご使用の環境にインストールした Hotfix や EEB がどのリリースに含まれているかを特定できます。このデータを使って、システムで特定のリリースのインストールまたはアップグレードを行う準備ができていないか評価します。

NetBackup 互換性リスト

SORT に加えて、シマンテック社はお客様がすぐに NetBackup の最新の互換性情報を参照できるようさまざまな互換性リストを提供しています。これらの互換性リストは次の場所にあるシマンテック社のサポート Web サイトで見つけることができます。

www.netbackup.com/compatibility

以下の項目では、利用可能な互換性リストのそれぞれについて説明します。

- 『NetBackup Enterprise Server and Server 7.x OS Software Compatibility List』
このリストには、NetBackup マスターサーバーまたはメディアサーバーとの互換性を得るために必要なオペレーティングシステム (OS) のレベルとバージョンに関する情報が含まれています。NetBackup クライアントとの互換性を得るために必要な OS のレベルおよびバージョンについても示しています。記載されているオペレーティングシステムの先行モデルと後継モデルは、そのリリースと記載されているオペレーティングシステムにバイナリ互換性があるかぎり、問題なく動作します。
このリストでは次のような NetBackup Enterprise 機能の互換性情報を示します。
 - NetBackup Enterprise のサーバーとクライアント
 - Bare Metal Restore (BMR)
 - NetBackup アクセス制御 (NBAC)
 - ネットワークデータ管理プロトコル (NDMP)
 - NetBackup OpsCenter
 - NetBackup の SAN メディアサーバーと SAN クライアント
 - ファイバートランスポート (FT) メディアサーバー
 - NetBackup メディアサーバー重複排除オプション
 - ファイルシステムの互換性
 - NetBackup 仮想システムの互換性
 - NetBackup Media Server Encryption Option (MSEO)
プラットフォームまたは OS のバージョンに対して NetBackup で互換性を得るには、プラットフォームのベンダーがその製品をサポートしている必要があります。NetBackup によって保持されているプラットフォーム互換性リストは、ベンダーがプラットフォームまたは OS のバージョンを追加または中止した場合に変更されることがあります。
- 『NetBackup Enterprise Server and Server 7.x Hardware Compatibility List』
このリストには、互換性のあるドライブ、ライブラリ、仮想テープデバイス、ロボット形式、ファイバーチャネル HBA、スイッチ、ルーター、ブリッジ、iSCSI 構成および暗号化デバイスに関する情報が含まれています。その他の互換性の情報は次のとおりです。
 - NetBackup アプライアンス
 - AdvancedDisk アレイ
 - OpenStorage (OST) ソリューション
 - テープドライブ
 - ファイバートランスポートメディアサーバーのホストバスアダプタ (HBA)
 - 仮想テープライブラリ (VTL)

- ネットワークデータ管理プロトコル (NDMP) デバイス
- テープライブラリ
- 暗号化およびセキュリティソリューション
- 『NetBackup 7.x Database and Application Agent Compatibility List』
このリストには、特定のオペレーティングシステムと CPU アーキテクチャでサポートされるデータベースエージェントおよびアプリケーションエージェントの最新の互換性情報が含まれています。
- 『NetBackup 7.x Snapshot Client Compatibility List』
このリストには、アレイ、エージェント、オペレーティングシステム、VSS プロバイダでソートされた最新サーバーとクライアントのスナップショットの互換性情報が含まれません。
- 『NetBackup 7.x Cluster Compatibility List』
このリストには、特定のオペレーティングシステムと CPU アーキテクチャでサポートされるクラスタの種類とバージョンの最新の互換性情報が含まれています。
- 『Support for NetBackup 7.x in virtual environments』
このリストには仮想環境での NetBackup の最新の互換性情報が含まれます。

NetBackup の End-of-Life のお知らせについて

Symantec社は多種多様なシステム、プラットフォーム、オペレーティングシステム、CPU アーキテクチャ、データベース、アプリケーション、ハードウェアに対し、可能なかぎり優れたデータ保護を提供することに取り組んでおります。Symantec社は、今後も NetBackup システムのサポートを見直してまいります。これにより、製品の既存のバージョンの保守と、以下についての新しいサポートの導入とを適切なバランスで行っていくことができます。

- General Availability リリース
- 新しいソフトウェアおよびハードウェアの最新バージョン
- 新しい NetBackup の機能

Symantec社が新しい機能とシステムのサポートを絶え間なく追加していく一方で、NetBackup のサポートの中には改善、置換、削除が必要なものもあります。これらのサポート処理は、古い、またはあまり使われない機能に影響することがあります。影響を受ける機能には、ソフトウェア、OS、データベース、アプリケーション、ハードウェア、サードパーティ製品との統合に関するサポートが含まれることがあります。また、場合によっては製造元によるサポートが終了しているか、サポート期間終了間際の製品が含まれる場合もあります。

Symantec社は NetBackup のさまざまな機能のサポートに変更があった場合でもお客様に支障のないように詳細な通知を提供してサポートいたします。Symantec社は、NetBackup の次のリリースでサポートされない古い製品機能、システム、サードパーティ

製のソフトウェア製品をリスト化していく予定です。可能であれば、メジャーリリースの前に最低 6 カ月で可能なかぎり早くこれらのサポートリストを利用できるようにします。

SORT の利用

今後のプラットフォームおよび End-of-Life (EOL) 情報を含む機能サポートの詳細な通知は、Symantec Operations Readiness Tools (SORT) for NetBackup のホームページにあるウィジェットから入手できます。SORT for NetBackup のホームページにある [NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定 (NetBackup Future Platform and Feature Plans)] ウィジェットは、次の場所から直接見つけることができます。

<https://sort.symantec.com/nbufutureplans>

NetBackup の End-of-Support-Life (EOSL) 情報は、次の場所から入手することもできます。

https://sort.symantec.com/eosl/show_matrix

p.74 の「Symantec Operations Readiness Tools について」を参照してください。

プラットフォーム互換性の変更について

NetBackup 7.6.1.2 リリースには、さまざまなシステムのサポートにおける変更も実装されています。SORT の利用に加え、『NetBackup リリースノート』ドキュメントおよび NetBackup の互換性リストを確認してから、NetBackup ソフトウェアをインストールまたはアップグレードする必要があります。

p.11 の「NetBackup の新しい拡張と変更について」を参照してください。

p.92 の「NetBackup の互換性リストと情報について」を参照してください。

他のNetBackup マニュアル および関連マニュアル

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の関連マニュアルについて](#)
- [NetBackup リリースノートについて](#)
- [NetBackup 管理者ガイドについて](#)
- [NetBackup のインストールマニュアルについて](#)
- [NetBackup の構成マニュアルについて](#)
- [NetBackup のトラブルシューティングマニュアルについて](#)
- [その他の NetBackup のマニュアルについて](#)

NetBackup の関連マニュアルについて

メモ: UNIX に関するすべての内容は、特に指定しないかぎり、Linux プラットフォームにも適用されます。

Symantec は、NetBackup ソフトウェアに関連するさまざまなガイドと技術マニュアルをリリースしています。これらのドキュメントはリリース形式にしたがって NetBackup の新しいバージョン向けに公開されています。

p.89 の「[NetBackup のリリース形式とバージョン番号について](#)」を参照してください。

特に指定のないかぎり、NetBackup マニュアルは次の場所から PDF 形式でダウンロードできます。

<http://www.symantec.com/docs/DOC5332>

メモ: Symantec は、PDF リーダーソフトウェアのインストールおよび使用に関する責任を負いません。

NetBackup リリースノートについて

NetBackup ソフトウェアには、次のリリースノートドキュメントが公開されています。

- **NetBackup リリースノート**
このマニュアルには、UNIX と Windows のプラットフォーム両方に対応する NetBackup の今回のリリースに関するさまざまな情報が含まれています。この情報には、新しい機能、プラットフォームの互換性の変更、パッチの必要条件、マニュアルの修正、既知の問題が含まれていますが、これらに限定されるものではありません。NetBackup のマニュアルやオンラインヘルプの他の場所で見つからない可能性がある操作上の注意事項も含まれています。
- **NetBackup Emergency Engineering Binary ガイド**
次のドキュメントには、すでに特定、解決され、NetBackup ユーザーが Emergency Engineering Binary (EEB) の形式で利用可能になった既知の問題の一部が示されています。ここには、指定のリリースで修正されているが、EEB では修正されなかった可能性のある問題の一部が示されています。

NetBackup 管理者ガイドについて

次の管理者ガイドが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup 管理者ガイド Vol. 1**
このマニュアルでは、UNIX または Windows サーバー上で NetBackup を構成して管理する方法について説明します。このマニュアルでは、NetBackup インターフェースについて、ホスト、ストレージデバイスとメディア、ストレージライフサイクルポリシー (SLP)、バックアップ、レプリケーション、監視と報告を構成する方法について説明します。
- **NetBackup 管理者ガイド Vol. 2**
このマニュアルでは、NetBackup のための追加の構成とインターフェースオプションについて説明します。このマニュアルには、NetBackup ライセンスについての参照項目と情報も含まれています。

NetBackup オプションの管理について

NetBackup オプションの次の管理者ガイドが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup AdvancedDisk ストレージソリューションガイド**

このガイドでは、**NetBackup AdvancedDisk** ストレージオプションを構成、管理、トラブルシューティングする方法について説明します。**NetBackup** に公開されているディスクストレージをバックアップ用のファイルシステムとして使う方法について説明します。

- **NetBackup Bare Metal Restore 管理者ガイド**
このガイドでは、サーバーのリカバリ処理を自動化して簡素化するために **NetBackup BMR (Bare Metal Restore)** ブートサーバーとクライアントのインストール、構成、管理を行う方法について説明します。
- **NetBackup クラウド管理者ガイド**
このガイドでは、**Symantec OpenStorage** を使ってクラウドの **STaaS (Storage as a Service)** ベンダーからデータのバックアップとリストアを行うために **NetBackup** を構成し、管理する方法について説明します。
- **NetBackup 重複排除ガイド**
このガイドでは、**NetBackup** メディアサーバー重複排除オプションを使って **NetBackup** 環境のデータ重複排除を計画、構成、移行、監視、管理する方法について説明します。
- **ディスクの NetBackup OpenStorage のソリューションガイド**
このガイドでは、**NetBackup** でバックアップ用にインテリジェントディスクアプライアンスを構成し、使用する方法について説明します。
- **Symantec NetBackup for VMware 管理者ガイド**
このガイドでは、**VMware ESX** サーバーで動作する **VMware** 仮想マシンのオフホストバックアップのような機能を実行するために **NetBackup** を構成する方法について説明します。
- **NetBackup Plug-in for VMware vCenter ガイド**
このガイドでは、仮想マシンのバックアップを監視して仮想マシンをリストアするために **NetBackup vCenter** プラグインをインストールし、使用する方法について説明します。
- **NetBackup for Hyper-V 管理者ガイド**
このガイドでは、**Windows Hyper-V** サーバーで動作する仮想マシンのスナップショットベースのバックアップポリシーを構成して管理する方法について説明します。
- 『**NetBackup for NDMP 管理者ガイド UNIX、Windows および Linux**』
このガイドでは、**NAS (Network Attached Storage)** システムのバックアップとリストアを開始し、制御するために **NetBackup for NDMP (Network Data Management Protocol)** をインストール、構成、使用する方法について説明します。
- **NetBackup SAN クライアントおよびファイバートランスポートガイド**
このガイドでは、ファイバートランスポート方式を使ってクライアントバックアップを高速化するために **NetBackup SAN** クライアントの機能を設定、構成、管理する方法について説明します。

- **NetBackup Search 管理者ガイド**
このガイドでは、バックアップのインデックス付け、クエリーの編集と保存、複数のドメイン全体の検索、NetBackup OpsCenter での検索処理を行うために NetBackup Search をインストール、設定、使用方法について説明します。
- **Symantec NetBackup Snapshot Client 管理者ガイド**
このガイドでは、VMware、Hyper-V、Replication Director との統合などのさまざまなスナップショットベース機能を有効にするために NetBackup Snapshot Client をインストール、構成、使用方法について説明します。
- 『NetBackup Replication Director ソリューションガイド』
このガイドでは、NetBackup OpenStorage の管理対象スナップショットとスナップショットレプリケーションの実装方法について説明します。スナップショットはパートナー企業のストレージシステムに格納されます。
- **Symantec NetBackup Vault 管理者ガイド**
このガイドでは、オフサイトメディアストレージのためにバックアップイメージの選択と複製を自動化するように NetBackup Vault をインストール、構成、使用方法について説明します。
- **Symantec NetBackup Vault 操作ガイド**
このガイドでは、NetBackup Vault を使って 2 つの主要な作業分野 (管理と操作) の一部としてメディアを Vault 処理する方法について説明します。説明する作業には、オフサイトにテープを送付し、サイトでテープを受け取り、オフサイトメディアと Vault ジョブでレポートを実行する手順が含まれます。
- **Symantec NetBackup OpsCenter 管理者ガイド**
このマニュアルでは、NetBackup OpsCenter ユーザーインターフェースを使って NetBackup とそのエージェントとオプションについてのレポート、監視、警告を提供する方法について説明します。
- **NetBackup OpsCenter レポートガイド**
このガイドでは、NetBackup OpsCenter を使って包括的なビジネスレベルのレポートを生成して使用し、データバックアップ操作やアーカイブ操作の有効性をトラッキングする方法について説明します。

NetBackup データベースエージェントの管理について

NetBackup データベースエージェントの次の管理者ガイドが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup for DB2 管理者ガイド**
このガイドでは、NetBackup for DB2 データベースエージェントをインストール、構成、使用方法について説明します。
- **NetBackup for Enterprise Vault Agent 管理者ガイド**

このガイドでは、Symantec Enterprise Vault の構成情報とアーカイブデータを保護するために NetBackup for Enterprise Vault Agent をインストール、構成、使用方法について説明します。

- **NetBackup for Informix 管理者ガイド**
このガイドでは、UNIX 版 NetBackup クライアント上で Informix データベースのバックアップとリストアを行うために NetBackup for Informix エージェントをインストール、構成、使用方法について説明します。
- **NetBackup for Lotus Notes 管理者ガイド**
このガイドでは、NetBackup クライアントで Lotus Notes データベースとトランザクションログのバックアップとリストアを行うために NetBackup for Lotus Notes エージェントを構成し、使用方法について説明します。
- 『Symantec NetBackup for Microsoft Exchange Server 管理者ガイド』
このガイドでは、Microsoft Exchange Server のオンラインバックアップとリストアを行うために NetBackup for Exchange Server エージェントを構成し、使用方法について説明します。
- **NetBackup for Microsoft SQL Server 管理者ガイド**
このガイドでは、Microsoft SQL Server データベースとトランザクションログのバックアップとリストアを行うために NetBackup for Microsoft SQL Server エージェントを構成し、使用方法について説明します。
- 『Symantec NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』
このガイドでは、Windows 版 NetBackup クライアント上の SharePoint データベースのバックアップとリストアを行うために NetBackup for SharePoint Server エージェントを構成し、使用方法について説明します。
- **NetBackup for Oracle 管理者ガイド**
このガイドでは、NetBackup クライアント上の Oracle データベースのバックアップとリストアを行うために NetBackup for Oracle エージェントを構成し、使用方法について説明します。
- **NetBackup for SAP 管理者ガイド**
このガイドでは、NetBackup クライアント上の SAP データベースと SAP HANA データベースのバックアップとリストアを行うために NetBackup for SAP エージェントを構成し、使用方法について説明します。
- **NetBackup for Sybase 管理者ガイド**
このガイドでは、NetBackup クライアント上の Sybase データベースのバックアップとリストアを行うために NetBackup for Sybase エージェントを構成し、使用方法について説明します。

NetBackup のインストールマニュアルについて

次のインストールマニュアルが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup アップグレードガイド**
このマニュアルは、NetBackup ソフトウェアのアップグレードの計画と実施を支援します。このマニュアルは最新情報を提供するために定期的に更新されます。
- **NetBackup インストールガイド**
このマニュアルでは、UNIX や Windows のプラットフォームに NetBackup サーバー、クライアント、管理ソフトウェアをインストールする方法について説明します。
- **NetBackup LiveUpdate ガイド**
このマニュアルでは、環境内の NetBackup ソフトウェアリリースの配布に関するポリシーに基づいた方法を提供するための NetBackup LiveUpdate サーバーを設定する方法を説明します。

NetBackup の構成マニュアルについて

NetBackup オプションの次の構成ガイドが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup デバイス構成ガイド**
このガイドでは、NetBackup サーバー用に使うストレージデバイスホストのオペレーティングシステムを設定し、構成する方法について説明します。

NetBackup のトラブルシューティングマニュアルについて

次のトラブルシューティングガイドが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup トラブルシューティングガイド**
このガイドは、一般的なトラブルシューティングに関する情報を提供し、NetBackup 製品と機能のために使えるさまざまなトラブルシューティング方法を説明します。
- **NetBackup 状態コードリファレンスガイド**
このガイドには、NetBackup、Media Manager、デバイス構成、デバイス管理、ロボットエラーの状態コードの完全なリストが記載されています。各状態コードのリストには説明と推奨処置が含まれています。

その他の NetBackup のマニュアルについて

次のマニュアルが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup コマンドリファレンスガイド**
 このガイドには、NetBackup のマニュアルページのコマンドすべてを含む、UNIX システムと Windows システムで動作するコマンドについての詳細情報が含まれます。
- **NetBackup マスターサーバーのクラスタ化管理者ガイド**
 このガイドでは、クラスタで NetBackup マスターサーバーをインストールして構成する方法について説明します。
- **NetBackup 高可用性の環境管理者ガイド**
 このガイドでは高可用性環境で NetBackup を使う各種方式を説明し、単一障害点から NetBackup を保護するためのガイドラインを示します。
- **NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド**
 このガイドでは、アクセス制御、強化された認可と認証、暗号化を使って NetBackup を保全する方法について説明します。
- **NetBackup ネットワークポートリファレンスガイド**
 このガイドでは、マスターサーバーとメディアサーバーのポート、クライアントポート、デフォルトポート、その他の NetBackup が使うポートを含む NetBackup ネットワークポートの参照情報を示します。
- **NetBackup スタートガイド**
 このガイドでは、NetBackup のこのリリースと関連しているインストール前の情報についての概要を提供します。ガイドにはまた、NetBackup メディアキット、NetBackup 電子ソフトウェア配布 (ESD) イメージ、NetBackup ライセンスキーの要件の説明も含まれます。
- **NetBackup バックアップ、アーカイブおよびリストアスタートガイド**
 このマニュアルでは、NetBackup の新規ユーザーを対象に、基本的なバックアップおよびリストアの手順について説明します。これらの手順には、コンピュータ上に存在するファイル、フォルダまたはディレクトリ、ボリュームまたはパーティションをバックアップ、アーカイブ、リストアする方法も含まれます。
- **NetBackup サードパーティの法的通知**
 この文書には、Symantec NetBackup 製品と OpsCenter 製品に係るサードパーティプログラム (適用される場合) の所有権通知とサードパーティプログラムのライセンスが含まれます。